HITACHI

to Nature!

深剃りの早剃り。

20枚刃の爽快深剃り。
日立「ロータリーツイン」。

世界初※ ロータリーシェーバー

RM-WX300

本体標準価格 **33,000円** 税別

- 1時間充電・交流式両用 ●AC100－240V
- デラックスソフトケース、スタンドつき

同時発売

RM-WX200 本体標準価格 **29,000円** 税別
- 1時間充電・交流式両用 ●AC100－240V

RM-WX100 本体標準価格 **23,000円** 税別
- 1時間充電・交流式両用 ●AC100－120V

●商品の価格には、配送・使用済み商品の引き取り等の費用、および、消費税は含まれておりません。●ご使用の際は、必ず「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●ご購入の際は、必ず「保証書」の記入事項をご確認のうえ、大切に保存してください。●特許50件、実用新案31件（平成8年6月現在、出願中を含む。） ※平成7年8月（当社調べ）

（株）日立製作所・九州日立マクセル（株）

新商品情報・商品選択など、家電品のお買物相談を承る窓口
0120-312111
お買物相談センター

荒川清美 氏（元副会長）

オリンピック・オーダー銀賞受賞

6月26日、東京・岸記念体育会館で行なわれたオリンピック記念デーで日本ハンドボール協会元副会長・荒川清美氏がオリンピック・オーダー銀賞を受賞、ＩＯＣサマランチ会長から指名されたＩＯＣ委員・猪谷千春氏の手で授与された。

受賞理由は、日本体育大学教授として教鞭をとりながら日本のハンドボールの発展に貢献、特に日本リーグの発足、日本ハンドボール協会の財団法人化を推進。1950年から日本協会理事、1967年理事長、1983年に副会長に就任した。ＪＯＣに関しては、1973年ＪＯＣ委員、1989年監事、1991年かに名誉委員に就任している。

荒川氏以外には笹原正三氏（レスリング）、松平康隆氏（バレーボール）、鬼鞍弘起（アイスホッケー）が同時に表彰された。

オリンピック・オーダーとは

1974年オリンピック憲章に制定され、受賞者は現存する個人に限られ、自らの個人的な実績によると、スポーツの発展への貢献を通じてとを問わず、自らの行動によってオリンピックの理想を立証した人、スポーツ界で顕著な功績を表した人あるいはオリンピックの目的のために優れた貢献を果たした人に贈られる。

6月度常務理事会

日　時　6月8日(土)
場　所　東京体育館　第4研修室
出席者　中澤専務理事、常務理事8名、参事1名、事務局3名

1、平成7年度事業報告（案）について

各担当常務理事より事業報告があり了承された。

2、平成7年度収支決算（案）について

収支決算について説明がなされた。オーナー会議での大幅な登録金の改定による特別強化費が計上され、特別会計で選手強化に活用したことが述べられた。

特別会計について委託事業、単独事業、収益事業ごとに説明がなされた。

日本リーグ会計が単独事業として日本協会会計と一体化し、決算した。スポーツ医科学委員会は強化の傘下であることが確認された。

3、平成8年度第1次補正予算（案）について

一般会計について、全体的に前年度の実態に合わせ当初の予算で展開することで承認した。

特別会計について、委託基金の内示があり金額減少のため一般会計より繰り入れ事業予算（案）を補正することで承認した。

オーナー会議特別強化資金の会計報告について、オーナー会議財務担当に報告承認を得て、各オーナーに書類で発送することで了承した。

平成8年度特別強化年間登録金の請求について、'97までオーナー会議の了解事項であるため、オーナー会議で諮問することなく請求することとした。

4、'97男子世界選手権関連事項

(1)ＩＨＦとの契約締結について、4月12日、ＩＨＦ専務理事、会計局長と渡邊副会長との間で契約した。

(2)日本協会執行体制について、世界選手権終了まで現執行体制で事業を推進するよう常務理事会で意見統一し全国理事会、評議委員会へ提案することとした。日本協会寄付行為に役員選出の具体的規定がないことから、寄付行為細則として成文化し役員選考委員会を設置することの提案があり了承した。役員選考委員会の枠組みを全国理事会に提案審議し、評議委員会で了承を得ることとした。

(3)熊本事務局との情報交換会開催について、'96ジャパンカップの反省をまとめ、近日中に開催。

(4)各担当進捗状況について

会場は5会場から4会場開催の報告があった。

競技開催時間について、熊本事務局は14時開始で申請、会場は1ゾーン1会場で固定するよう申請。

(5)世界選手権期間中の動員について、熊本大会を盛り上げ観戦を願うとの主旨からフェスティバル大会を計画しているが、支援体制として実連、学連、日本協会、及び熊本県協会が検討することとした。

学連ＯＢ、ＯＧへの動員呼びかけを民間レベルで検討している報告があった。

ＣＯＣ委員長が施設視察調査で来日する。

5、5,000人キャンペーン「世界選手権フレンドシップ'97」について

全国ＰＲ、募金活動について「世界選手権フレンドシップ'97」キャンペーンとして展開する。会費は1口1万円とし、記念テレホンカードと機関誌特集号を熊本大会対戦組み合わせ決定後に送付する。

国内アピールとして各機関各種主体会に熊本大会のパンフレットを配布、ＰＲと募金を実施する。発起人、パンフレット作成が7月中頃までに完成するよう担当に一任。

全国理事会、全国理事長懇談会で協力依頼をする。

各種大会プログラムに熊本大会告知広告を載せる。

世界選手権テーマソング、応援歌のＣＤを各都道府県、日本リーグチームに配布。

6、選手強化関連事項

'97ジャパンカップ開催について、6チームで実施を計画、一般会計、特別強化資金より充当することで推進している。

スウェーデン国際親善大会について、全日本チームの最後の仕上げとして計画、実業団チームとの対戦を含め実施に向けて推進している。

ナショナル委員会の人事構成について、スポーツ医科学委員長の追加があり了承。

ナショナルチームユニホーム広告について、広告料の全額を協会に納入し強化費用に繰り入れることで了承。詳細については強化委員会で検討し常務理事会へ提案。

全日本女子チームについて、アジア選手権と世界学生選手権がバッティングした場合、ナショナル活動を優先することを確認。

スポーツ医科学研究指導報告書の編集完成に伴いナショナル選手のコンディショニングについて講習会を開催。

アジア男子ジュニア選手権団長を了承。

アトランタオリンピック視察派遣の報告。

7、指導委員会関連事項

(1)公的資格（公認コーチ等）取得の義務付けを2001年までに実施したい旨提案がなされた。補助金対象以上の受講者がある場合日本協会で予算化し実施するよう全国理事会で了承を取ることとした。

(2)中体連ハンドボール部を高体連、学連と同等に認め指導普及を図ることとした。

(3)第3回スポーツ医学国際会議（日本・熊本）について、ＩＨＦ・ＭＣ委員長が来日し、打ち合わせた結果、日本協会は先の決定通りとなった。

●報告事項

ヨーロッパ選手権視察報告があり、熊本大会にロシア、スペイン、ユーゴ、スウェーデン、クロアチア、フランスの参加が決定した。

全般的スケジュールの調整、大会の見直し等の機関としてＩＨＦ・ＣＯＣに対応する競技検討委員会設置の意見があった。

広島国際大会について報告があった。

第1回全国理事会

日　時　平成8年6月15日(土)
場　所　岸記念体育館
出席者　理事16名、参事6名、監事1名

議題1、平成7年度事業報告（案）について
（常務理事会の項参照）

議題2、平成7年度決算（案）について承認

議題3、平成8年度第一次補正予算（案）について
（常務理事会の項参照）

議題4、'97男子世界選手権大会関連事項について

(1)ＩＨＦとの契約締結について

(2)ジャパンカップ'96終了に伴う課題について

(3)進捗状況について、ＴＶ放映に関して、映像作成はＮＨＫ情報ネットワークと契約する予定であり、国内放映に関しては、ＮＨＫに依頼のため訪問予定である。

オフィシャルスポンサーについて、ＴＶ放映の数が問題であること、ＪＳＭに依頼することで話が進んでいる。

会場及び日程について、組み合わせと規定の問題で変更の可能性があり、最終的な決定はアトランタでのＩＨＦ総会で決定の予定である。

参加国について24カ国中7カ国が

決定。12月に組み合わせ抽選を行う予定。

アトランタオリンピック時のIHF総会に渡邊副会長が世界選手権に関して10分ほど報告を行う。また、AHFの役員改選並びに総会に渡邊副会長、井理事が参加する。

(4)世界選手権フレンドシップ'97（仮称）事業計画について

（常務理事会の項参照）

(5)理事長懇談会の開催について、6月29日、評議委員会後、全国理事長懇談会を開催したい旨報告。

(6)観客動員について、世界選手権の観客動員を図るためのに日本協会主体観戦ツアー、都道府県協会・連盟主体の観戦ツアー、個人計画による観戦ツアーについて提案がなされ、都道府県・連盟主体のツアーに関して協力依頼。観客動員に関して、その年度の全国大会の予選日程に関連するので、理事長懇談会の話題にして欲しい旨要望あり。

(7)世界選手権開催時に世界選手権観戦を兼ねてのフェスティバル大会に日本協会主催を常務理事会で承認したことを報告。自主運営の方向で計画に入っていくこととなった。

(8)世界選手権財務問題について報告があった。

議題5、'97男子世界選手権大会に伴う平成7・8年度日本協会役員の任期について

平成7・8年度役員の任期について、'97世界選手権終了まで現執行部で運営することが望ましいので、世界選手権終了まで任期を延長する提案があった。上部団体、各連盟との関係がある。世界選手権の財産を残し次の問題を大切にする、前人選委員会は世界選手権を意識して選んでいるとの話がある、とのことより任期通りとするとの意見が大勢を占めた。

議題6、寄付行為第17条（役員の改選）に関する細則の制定について

他競技団体の細則について説明があり、役員を公正な立場で選べるようにルール作りをしたいため、寄付行為細則に第3条を設け、役員選考委員会を編成することが提案された。選考委員会委員について、選出母体が重複しないようにとの一項が添えられ以下のように決定した。正副会長2名、常務理事2名、ブロック理事2名、連盟理事1名、評議員4名、合計11名、以上承認。

評議員会終了後直ちに選考委員会を編成する手順とすることとなった。

議題7、選手強化関連事項について

全日本男子チームの強化スケジュールと終了した試合について結果報告。男女各ナショナルチームの事業計画と帯同について報告。第4回ジュニアアジア選手権で3位になったことを報告。

議題8、各事業担当・各ブロック・各連盟提案事項

(1)神奈川県協会からの第2回ジャパンオープントーナメント大会に関し、男子32チーム、3会場、女子16チーム1会場でとの提案がなされた。日程について常務理事会に一任することとなった。

(2)四国ブロック理事長改選に伴う日本協会役員人事について、理事長が交代したことが述べられ、これに関わり日本協会役員の交代について申し出があった。2年任期に合わせるとのことから、四国ブロックの了解を得てから、任期いっぱい現役職に留まることとなった。

(3)平成8年度第20回記念全国高校選抜大会は男女各36チームで行うことが報告された。また、前日の審判講習会を研修会を兼ねて行いたいことが述べられ、日本協会にも協力方依頼された。

(4)普及・指導事業から

イ、ナショナルチーム監督等公的資格取得の義務付けについて、提案がなされた。

ロ、平成8年度公認コーチ(C級)養成講習会が受講者44名で行われることが報告された。C級スポーツ指導員養成講習会も、熊本県、愛媛県で行われることが報告された。

ハ、普及委員会の組織変更について

ニ、学校体育ハンドボール検討委員会の検討が始まっていることが報告された。

ホ、関東少年少女ハンドボール大会と全国小学生大会の日程が重なったことに対し、今後日程を決定する際、考慮するよう各ブロックに依頼がなされた。

(5)第2回男子欧州選手権大会視察報告

(6)その他

イ、アトランタオリンピック日本選手団本部役員に市原理事が選出されたことが報告された。

ロ、市原理事よりスポーツイベントの日韓交流の記事は誤報であることが報告された。また、韓国実業団選手権について女子は大崎、日立を、男子は中村と湧永を派遣することが報告された。

ハ、大会使用ボールと松ヤニ使用について質問が出され、早めに連絡するよう要請された。

ニ、世界選手権のテーマソングのCDが出来上がったことが述べられ、今月中に各連盟、各都道府県協会に送付されることが報告された。各種大会に流して頂くよう要請された。

ホ、野田理事より、JOC専任コーチの後任に田口氏が承認されたことが報告された。

第1回評議員会

日　時　平成8年6月29日(土)
場　所　岸記念体育館
出席者　評議員44名、
執行部　渡邊副会長、
中澤専務理事、理事9名、
監事2名、参事1名

議題1、平成7年度事業報告について（常務理事会の項参照）

議題2、平成7年度決算について（常務理事会の項参照）

議題3、平成8年度第一次補正予算について

異議なく了承。

議題4、'97男子世界選手権大会に伴う平成7・8年度日本協会の役員の任期について

（第1回理事会の項参照）

議題5、寄付行為第17条（役員の選任）に関する細則の制定について

寄付行為細則は11月全国理事会に差し戻し練り直すこととなった。

次期役員選考に関し、評議員10名で選考委員会を構成する従来通りの案と、評議員10名に議決権のない理事2名を加えて選考委員会を構成する案とに纏められ、採決がなされた結果、後者の案が採択された。評議員会終了後委員選出の依頼。

議題6、'97男子世界選手権大会関連事項について

（第1回理事会の項参照）

テーマソング、応援歌が決定発表になった。

大会総経費について説明がなされた。

観客動員並びにフェスティバル大会について説明がなされた。

世界選手権フレンドシップ'97について、審議経過の説明がなされ、個人レベルでの協力依頼がなされた。

議題7、選手強化関連事項について

野田理事より、事業日程についての説明、オルソン監督の考え方についての説明がなされた。今後の活動に関連して各都道府県協会に協力依頼がなされた。

議題8、その他

(1)興縄熊本県協会会長より世界選手権に関して参加している意識で来熊の依頼をする挨拶があった。

(2)大阪東理事長より第1回ジャパンオープンハンドボールトーナメントについて発言があった。

(3)木野理事より、マトランタオリンピックTV放映に関しNHKで、女子の試合は8月4日決勝で放映されることが報告された。

(4)去る6月26日のオリンピックデーに、荒川清美氏がオリンピックオーダー銀賞を受賞されたことが報告された。

第2回ヒロシマ国際大会

世界の強豪がヒロシマへ

韓国が他を圧倒

～オリンピック3連覇に向かってまっしぐら

ゲームを見守る日本ベンチ（写真中央が樫塚監督、その右隣が西窪コーチ）

第2回ヒロシマ国際大会が6月20～22日の3日間、広島市東区スポーツセンターにて女子世界No.1韓国ナショナル、欧州の強豪ポーランドナショナル、中国から北京周辺の選抜チーム、日本チームの4ケ国の間で行なわれた。

アトランタ・オリンピック大会を1ケ月後に控えての世界No.1の韓国チームはベストメンバーで来日、その仕上がりが注目されたが3ゲーム共まったくスキのない攻守を見せつけ他のチームを圧倒、オリンピック3連覇に向かってまっしぐら、ますます可能性がでてきた印象だ。

日本は新チームになって初の公式国際ゲームで、チーム力と個人プレーに興味がもたれた。樫塚監督の意図する早いプレーと動きのあるプレー、また日本チームの特長を出そうとする意欲が随所に見られたものの、何でもないパスミスが見られ、また決めるべきところで決められない弱点は今後の課題であろう。

ゴールベスト10		
1	洪延昊（韓国）	17
1	イザベラ.チャブコ（ポーランド）	17
1	アンナ.イーズモント（ポーランド）	17
4	金美心（韓国）	15
5	金銀美（韓国）	14
6	田中美代子（日本）	12
7	王頴（中国）	11
8	金浪（韓国）	10
9	李尚恩（韓国）	10
10	楊蕾（中国）	9
10	マグニュシカ.トルシンスカ（ポーランド）	9
10	林五卿（韓国）	9

なお、この大会ではアトランタ・オリンピックでも採用されている作戦タイム（各チーム前後半1回ずつ1分間）がとられた。そしてローカルルールで試合メンバーは14名で行なわれた。

6月20日

ポーランド23（10－10、13－10）20日本

［戦評］日本はスタートから3点連取、10分には7－3とリードを奪う。日本の早いボール回しとブラインドをついたステップシュート等がよく決まる。

ポーランドは前半ボールが手につかずわずかに個人技に頼るのみ。

しかしエンジンがかった後半はナボジュナの速攻と右サイドのシュート、チャプコのカットイン、長身イーズモントのロングが決まり出す。

日本も稲次のリードから山形のサイド、田村のステップ、田中のロングがあざやかに決まり、互角に対抗、20分過ぎポーランドは3点連続得点して追いすがる日本を引き離した。日本はまったく惜しい星を逃した。20－25分の3点連取が響いたが、最後まで攻守にハツラツプレーが見られ、欧州の強豪を最後まで苦しめた。

韓国36（16－7、20－5）12中国

［戦評］韓国は立ち上がりから素早

日本対ポーランド戦の攻防

い動きとパス回しで中国を圧倒、11分までに早々と8－1とリード。後半も全員が脚力を生かす走り、守っても防御を割り込もうとする中国の動きを早いアタックで防ぐシャットアウト。しかし今一つコンビプレーが見られず監督からゲキがとんでいた。

日本チームのメンバー

6月21日

日　本24（12－13／12－6）19中　国

[戦評]勢いというのはこわいものである。また、いかにゲームの立ち上がりが重要かを教えてくれたゲームだった。気力で日本を上回る中国は陳のリードから若いプレーヤーが伸び伸びプレー、足を動かしよく動く。そして体格、体力を生かして鋭いカットインプレーで日本は前半防戦一方。

　後半、日本は5点連続を決めてからようやくプレーにも落ち着きが見られたが、決める時に痛いシュートミス、またパスミスが出てなかなか点差を広げられなかった。20分辻のゲット、田中美代子が連続3ゴールを決め辛うじて逃げ切った。

韓　国37（19－11／18－10）21ポーランド

[戦評]韓国に対し今上昇機運にあるポーランドがどのように挑むか興味がもたれた。両チーム共気力が空回りしてミスを連発。特にポーランドは5分にトルシンスカが退場と不正退場をとられ完全にリズムが狂った。韓国はこういったミスを逃さず着実にゴールを奪うところはさすがである。防御から速攻への切り替えも見事。

　後半、必死で食い下がるポーランドであったが、韓国の早いボール回しについていけず、韓国のフォーメーションプレーが面白いように決まった。

6月22日

ポーランド37（19－6／18－6）12中　国

[戦評]若手で固めた中国は連戦の疲れからかきれが悪く、ミスを重ねた。これに対しポーランドは、動きの量とスピードの乗った攻めを見せ、立ち上がりから中国を圧倒、若手のホープ・チャプコやベテランで左右どちらからでもシュートが打てるイーズンモントを軸に着々とゴールを重ねた。

　特に前半の5－2から早いボール回しやミスにつけこんだ速攻で9連続得点をマークした攻めは圧巻だった。守りでも積極的に前に出て中国の攻撃を封じ込めるなど、終始、余裕をもった戦いで完勝した。

韓国チーム金美心のシュート

韓　国37（18－5／19－4）9日　本

[戦評]日本にとって世界の女王・韓国の前に悲惨な幕引きだった。象徴的だったのが、立ち上がり15分間の攻防。速攻、サイド攻撃、鮮やかなコンビプレーを披露した韓国に対し、日本は防戦一方でリズムがつかめず、時折放つシュートもバーやポストにきらわれ、あっという間に0－12の大差。勝負の先は読めてしまった。

　韓国はその後その後スピーディな動きとタフネスぶりを発揮、日本のDFがつられて空いたスペースへ回り込んでのシュートなど面白いようにゴールを量産した。

　日本は左腕・田中美代子のゴールが散発的に決まっただけで、攻めのコースの読まれて苦し紛れのシュートを繰り返すだけ。戦術的にも未消化で、課題が一気に吹き出したような戦いだった。

韓国チームの主将・林五卿

ヒロシマ国際大会で写真展

第2回ヒロシマ国際大会が広島市東区スポーツセンターで開催された折に会場入口にて97年熊本世界大会のPRのために写真展が行なわれた。大会主会場のパークドームはじめジャパンカップ熊本の時の選手の迫力あるプレー、全日本選手、世界のスーパースターの写真などが展示され、入場者はしばし足を止めて写真展を楽しんでいた。来年は是非熊本へ行きたいという声も聞かれた。

なお、写真展示は、ハンドボール愛好者はじめ一般の人々にも関心をもってもらう意味からも、今後機会をみて全国の大会でも行なう予定でいる。

ポーランド（POLAND）

リーダー　ヴォイチェク　エイモンド
トレーナー　イエジェ　チェブリンスキ
〃　テレサ　ベツォルド
ドクター　ズビグニエフ　ノヴォサツキ
マッサージ　ビオトル　アブロラト

番号	氏　名	日本	韓国	中国	計
1	イヴォナ ベデナク	0	0	0	0
2	アグニェシカ トルシンスカ	2	3	4	9
3	アグニェシカ ジェンキュヴィッチ	4	0	3	7
4	シヴォナ ナボジュナ	5	0	0	5
5	アレクサンドラ ユヴナツカ	0	1	4	5
6	アンナ ガルヴツカ	1	3	2	6
7	マウゴジャーク イエンドジェイナャク	1	0	3	4
8	アグニェシカ アトュシェフスカ	0	2	2	4
10	レナータ ズキエル	0	0	3	3
11	イサベラ チャブコ	4	6	7	17
12	イヴォナ コヴァレフスカ	0	0	0	0
13	アンナ エイスモンド	6	6	5	17
15	サビナ ソヤ	0	0	4	4
16	イザベラ コヴァレフスカ	×	×	0	0

中華人民共和国（CHINA）

リーダー　泰少波
チーフ　王瑞生
マネージャー　白景生
通訳　呂志華
オフィシャル　張新安
コーチ　柳　青
コーチ　張西凌
オフィシャル　邵志雄

番号	氏　名	中国	ポーランド	日本	計
1	劉金栄	0	0	0	0
3	孙佳	0	0	0	0
4	韓愛華	2	5	0	7
5	王頴	3	4	4	11
7	唐艶艶	1	4	0	5
8	万舒	0	0	0	0
9	王巍	0	2	0	2
10	陳志英	3	4	0	7
11	楊蕾	3	0	6	9
12	王暁霞	0	0	0	0
13	李暁方	0	0	0	0
16	歩卓	0	0	0	0
18	彭鴿	0	0	2	2

日本（JAPAN）

団　長　藤原　修　日本体育大学
監　督　樫塚正一　武庫川女子大学
コーチ　西窪勝広　オムロン

番号	氏　名	中国	ポーランド	日本	計
1	松尾　香代	0	0	0	0
12	山下美智子	0	0	0	0
16	藤浦　美絵	0	0	0	0
2	町村　啓子	2	4	2	8
3	山形　雪子	5	1	0	6
4	田中　里美	×	×	×	0
5	上出恵美子	3	2	0	5
6	松本　恵美	1	0	0	1
7	広瀬喜代香	×	0	0	0
8	稲次　彩	3	5	0	8
9	杉原　奈々	0	0	0	0
10	田中美音子	1	1	2	4
11	田中美代子	4	4	4	12
19	辻　賀奈子	0	3	0	3
14	田口　順子	0	×	×	0
15	田中由美子	1	4	1	6

大韓民国（KOREA）

ヘッドコーチ　鄭享均
コーチ　金甲洙
コーチ　尹泰日

番号	氏　名	中国	ポーランド	日本	計
1	文香子	0	0	0	0
2	許順榮	1	2	×	3
3	金美心	4	6	5	15
5	韓善熙	3	×	3	6
6	郭恵静	3	0	3	6
7	林五卿	1	6	2	9
8	金浪	4	3	3	10
9	金貞美	3	×	0	3
10	呉成玉	4	5	2	11
11	洪延昊	4	5	8	17
12	呉令蘭	0	0	×	0
13	朴正林	0	3	2	5
14	金銀美	4	6	4	14
15	李尚恩	5	1	4	10
16	趙銀姫	×	0	0	0
17	金貞心	×	0	1	1

'96年春

ドイツでのハンドボール感想記

光島磯雄

今までの20数年間のうち、およそ隔年にドイツを訪ねていたが、時期的にどうしてもドイツハンドボールのハイシーズン（ホッホセゾンという）合致させることがむずかしく希望がかなえられることは極めて少なかったが、この度3月末に個人的な発意で訪独し、ドイツ国内リーグの1部であるブンデスリガの3試合（GWD・MINDEN―WALLAU MASSENHEIM）、（NETTELSTEDT―OSC、RHEINHAUSEN）、（SC・MAGDEBUR―GWD・MINDEN）、そして、4月末大阪市選抜チームと帯同しての訪独で、ハンブルグ協会の厚意配慮により、ドイツ最高の大会であるドイツカップ大会（ドイッチェポカルシュピーレ）の準決勝と、決勝野3試合を観戦する機会を得て、大阪市チームにとっても、この前代未聞ともいうべき最高イベントの見聞体験機会を与えられたことを、この上ない強い感銘と感謝の意を表明する気持ちで一杯である。以下にこの観戦・体験を述べてみる。

◎ブンデスリガ3試合5チームプレーとその他についての感想

いずれも力と体のぶつかり合いで、60分間の激しい動きはゆるむことなく、長短の強力シュートの連発による点の取りあい、攻の面では、サイドから逆サイドまで、センターラインからゴールエリアラインに及ぶ縦横の幅の深さと、高さのあるボールの移動と、プレーのボールなしでの動きは、まさに基本どおりのことを忠実にやっている。

防の面では、1―5、2―4を併用し、機に応じてどちらかに転換する場面が多く見られ、ボール保持プレイヤーの次のプレーの予測、あるいは、空間にあるボールに対する次々の場面への予測行動、そして、相手を身体で阻止しようとの動きが、往々にして相手を掴む、はがい絞めにすることにも及んでしまう。GKは、いずれも果敢な動きで場内を沸かせる。

レフェリングでは、来日したことのあるトーマス兄弟、4月に来熊予定のビューロ・リュプカーの吹笛が安定していて、エキサイトの場面にも常に余裕有る表情態度（ときには笑みを浮かべて）で始終する判定姿勢で、雰囲気の過激化を招かぬ運営を示していた。目立ったことは、攻防どちらのボールかの判定が、プレイヤーに即座に判りにくいときには、適宜、数秒間の説明のようなことをしていたことである。しかしながら、ドイツにおいても、日本でよく見られるアドバンテージの見損ない、過早な吹笛で、チャンスの消滅を招いた時に見られる、オーバーステップがあったと胸元で示すゼスチャーで、フリースローに戻すこともしばしば見られたが、これはレフェリーのエラーの弁解笛と言うべきであろう。

スタンドから見ていると良く分かるレフェリーのミスは、しばしばレフェリーがボールに近いところにいるが故に、瞬間的におこるボールやプレイヤーの位置の変化を見損なうことがあることを、再認識した次第である。このようなとき、プレイヤーは一応アピールの動作をしたり、質問したりするが、その指摘が正しいと理解しているときは、いたずらに権威を振り回したりはせず、率直に軽い動作でそのミスを反省する所作をした方が適切であるとの意見を耳にした。しかし、これも度重なれば、

マクデブルグの優勝をチームと観衆が一体となって喜んでいる

不利を与えられたチームの対応はただならぬものとなるであろう。

　総体的に言えることは、CR（ドイツではFSという）の動きが見た眼には不十分で、アドバンテージ状況への対応が完全でない。中には、CRの明らかなエラーであっても、GR（ドイツではTS）は介入しないことにしているものもある。独自の自己流のゼスチャーは全く見られず。フリースロー地点の修正は必ずやっており、不正な速攻の発生では、GRが必ず修正している。ステップについては、我々と明らかに大きな観察眼の相違があり、彼らは、小さなフェイントモーションのフットワークにはうるさいが、ズバズバと走り抜けるステップは大目に見ているかのようである。ジャンプシュートや倒れ込みシュートの際の着地後プレーにも甘い。攻のラインクロス判定についてのGKや防プレイヤーの反応はまことに素早い。レフェリーもそれを誘発（面白く見せる）する行動をとっているものとみえる。

　大観衆のもたらす様々な音響と声援は、レフェリーの笛が聞こえなくなることとあり。これは、ふえの種類（形式、音質）、状況にマッチした吹き方、位置取りに、もう一段の工夫の必要があって当然と感じた。よく耳にする、北欧系のハンドボールと中欧系のそれでは、明らかに本質的な相違があり（特に付け加えれば、アジアでは韓国のハンドボール）、それが、レフェリングでは、肉弾相打つ攻防場面は当然。押したり掴んだりすることも、「極端、危険」の尺度がIHFの公式見解とはかけ離れていて、それを、チームや観衆やメディアは期待する傾向が有るかに見えた。

　日本でも見られるサイドからのノーマークシュートへの反則にも、フリースローにしてしまう事も多く見られ、ドイツのレフェリOBも、これは根拠の無いことだと苦笑していた。

　13―6、14―9（アドバンテージ）への対応も、IHFルールとは違う感有り。どうやら、相手を掴んだり、押したり、両手で抱きつくような行為は、側方、後方、あるいはジャンプ中の相手に対する突き飛ばし（突き倒し、捕まえ）のような危険な事と区別しているらしく、後者に対しては遠慮容赦なく即座に、厳正な段階罰を適用していることも確かである。負傷者や、起き上がれずに倒れている者があれば、おおむね、レフェリーの入場許可の合図を待たずにチームの担当者が走り込むこともよく見られたが、これにも、罰則は無しの扱いであった。

　場内アナウンスは、ホームチーム（ハイムマンシャフト）側に声援を求め、ムードを盛り上げる表現を用いている。得点後、○対○と告げて、得点プレイヤーの姓を呼び上げると、観衆が一斉にその名を叫ぶ。GKのファインプレーの時も同様にしている。とにかく、全館内の観衆が、一斉にそれをやる様は、日本では考えられぬくらい強固な、地元との密着性がうかがい知れる。

　すでにドイツでは新ルールを大部分適用した形で行なっており、タイムアウト（チームからの請求、7mスロー時）、パッシブ予告等で、今後の試合は70分近くなることは確実であり、しかも、ハーフタイムもTV放送のため15分で行なっていた。

　なにしろ熱狂的なファンの観衆は、試合前、ハーフタイム、試合後の非観覧席通路、廊下が、師走のデパート、あるいは秋葉原アメヨコを思わせる混雑ぶりで、ビールなどの空き瓶がそこかしこに無数に置き捨てられている眺めも、壮観といえば壮観。館内の食堂では、軽食や飲み物がホームチームクラブ側からサービスされ、試合後、関係者が歓談しているが、この時は、敵味方・レフェリーとも呉越同舟だが、レフェリーのこきおろしが声高に語られても、皆ニ

コニコしている場面は、これも社交であり、楽しみのひとつとして割り切れるからで有ろう。酔狂を起こす者も全く見られず、館内の要所要所には、多くの屈強な警備整理員（オルドナーという）が立ち、瓶類等を決して観客席に持ち込ませないよう目を光らせている。

他に気づいた点では、広告板設置のため、サイドラインから規定の安全地帯は無視されており、20cmぐらいしかないことや、ゴールネットは糸も太く、内側にもう一枚のネットが張られてあり、ゴール本体への取り付けも、誠に頑丈そのもの。

また、地元のつながりを深めるためであろう、試合開始前にチームがコートに入ってくると、いつも最前列に陣取っている少年少女達が、ワアーッと飛び出してお目当てのプレイヤーの激励に行き、プレイヤーはプレイヤーで、何か小物をプレゼントする習慣は、見事なもの。甚だしい場合は、シュートの練習にもチョロチョロ参加したりするし、プレイヤー達も、適当に相手をしてやっていることもあり、試合後も、ゴールエリア前で色々なプレーの真似事をしている様子も、流石と思わせる。そして、地下食堂へ行けば必ず何か貰えるというわけである。これらは、皆地元クラブの構成員の一人であり、この中から、楽しみながらプレイヤーが育つという環境は、日本の現状を思うとため息が出るだけである。

何しろハンブルグ体育連合会では400からの下部クラブと、スポンサーによって支えられているというのだから、話が違いすぎる。

◎4月30日、5月1日両日、ドイツカップ大会を見た感想

出場チームは、現在の4強というべきTUSEM ESSEN（ルール地方・来日したことあり）、TG・MERUSUNGEN（メルズンゲン、ヘッセン州、2部チーム）、WALLAU MASSENHEIMU（マッセンハイム、ウエストファレン州）、SCMAGDEBURG（マグデブルグ、ザクセン・アンハルト州）の4チームが、ハンブルク体育館に首位を目指し、その力と技を競い合った。

ハンブルク協会の手配によるバスで会場に着いたとき、駅から道を埋めるばかりの長蛇の人の列は、老若男女様々、道々ラッパやドラムを鳴らしながら、クラブ歌（？）を歌いながらのデモで歩く様は、これも日本では見られぬ景観で、嘆声が出るのみ。入場券は、とっくに売り切れとのことで、その入場についても、入口の管理はなかなかの厳しさ。特に感じたのは、バッグ類が全てチェックされ、VTR機器は全て2マルクとられて、一時預けに預けさせられたことである。これなど、ドイツ協会の著作権を勝手に侵害するなかれの意向とみられ、Videofilmが欲しければ、公式の物を購入せよという訳であろう。このあたりも、学ぶべき、見習うべきことであろう。

フロアーはハンドボール専用のマットレスを敷きつめたもので、中央にドカンとスポンサー印が張りつけられてあり、いたるところに広告板の多さにも、又々ため息。

ドイツ選手権大会なので、ドイツ協会（DHB）、地方協会（と言ってもドイツでは、地方、中央という意識はほとんど無い）の幹部が多数見られ、旧知のドイツ審判部長ウイリー・ハックル（IHF理事も兼ねる）、来日したことの有るホフマン、プラウゼ、ナショナルチームのチーフトレーナーのアルノ・エーレット等の顔も見え、旧交を温めることが出来た。

ドイツ協会会長は、ダイムラーベンツの役員をしているベルント・シュタインハウザーという50歳の気鋭の紳士。

試合は、前記のブンデスリガ同様、壮烈な攻防の展開で終始し、初日のメルズンゲン対エッセンは、メルズンゲン2部チームながら、近年補強の実をあげて伸び盛りのチームということで、1部トップグループのエッセンに食い下がり健闘し、惜敗したが、応援したファンは終了後もコート上で、プレイヤー達と大喜びで祝っていたのは印象的であった。国際試合経験260という桁外れのルーマニア人の、アレクサンダー・フェルカーというのがいて、すごいこと。マクデブルク対マッセンハイムも激戦となり、旧東独の面目にかけての強肩、好走、闘志は、ディフェンスが4人になっても衰えることなく勝ち抜いた。

レフェリングは、第一戦が旧東独のシュタルケ、ツェルナー、第2戦がファリション、ミヘル（ザール地方）担当したが、トラブルは無かったものの、荒い試合になってしまった感じ。ハックルにたずねたら、ドイツカップ大会だからあれくらいは仕方ない、レフェリーは普通以上の出来だったとのこと。

第2日、決勝は15時30分から開始された。その前座として、大阪市チームはハンブルクジュニアとの対戦の機会を与えられ、閑散とした館内であったが善戦し、「惜敗」の域まで達したと思っている。時間が近づくにつれて、次々とエッセン、マクデブルクからのバスが到着し、応援合戦が始まる。開

始に当たってのコート入場なども なかなか凝っており、照明を全て消して、チームだけに光を当てるといったクローズアップをしており、盛り上がりを一層かき立てる演出。レフェリーは、来日したビューロ、リュプカーが担当。

試合は、この日に満を持したエッセンのヨッヘン・フラーツ（国際試合187、来日したこと有り）が軸となって、旧ソ連出身のアレクサンダー・トウシュキン（149試合）、2m以上は確実にあるドラガンスキーらの若手を動かして初めは先行したが、マクデブルクもそうはさせじと、これまた輸入外人たる179試合経験のルーマニア人ロベール・リクー、ポーランドからのトーマス・レビーディンスキー（163試合）、226試合経験のベテラン、ビギンダス・ペッケビウス等の力で追い上げ、主導権を奪い、1000人以上の応援ファンの大歓声のうちに勝利。その途端、コート内に殺到したファンと抱き合い、踊りあっての中、紙吹雪・ドラム・ラッパの狂奏、なんとも盛大、かつ凄じいばかりの優勝シーンとなった。59年の東西ドイツ統一以来、何に付けても西側に牛耳られている現在の旧東独の、積もりに積もったうっぷんをこの機会に爆発させたような興奮ぶり。

直ちに、シュタインハウザー会長から銀色燦然たるカップが、コート中央に手早く特設されたステージ上に立ち並ぶマクデブルガーに渡され、ファン共々、フッラー・フッラー（万歳）の大合唱。このムードは日本で例えるとすれば、規模は小さいが密度は対等と言うべき阪神・巨人戦の甲子園球場での勝利の場面と同じである。状況が一段落したので、控え室へ行こうとして階段を下りたところで、チーフコーチの旧東独ナショナルプレイヤーだったロタール・デーリングとすれ違い、「グラトゥーリーレ」と声を掛けたところ、満面に笑みを浮かべて、「ダンケ・シェーン」と握手をしてくれたことにも感銘する。彼も来年は熊本に来るであろうから、その時は歓迎してあげなくてはと思いつつ、体育館を後にした。

ドイツカップは、当分の間ハンブルクが開催権を持っているとのこと、いつの日か再びドイツハンドボールの真髄に接する機会を、日本の有志の皆さんと共に見学、観戦したいものと、楽しみにしている次第である。

思いつくままに、前後まとまりのない感想文をつづったが、以上でペンを置く。

高橋　鉄

〈国内リーグ〉

ドイツ国内にはさまざまなレベルのリーグがあり、誰もが自分の競技レベルに合わせてハンドボールを楽しめるようになっている。一番トップのリーグがブンデスリーガ、国内16州の代表チームがホーム&アウェイ方式でリーグ戦を行なう。その下にブンデスリーガの2部リーグがあり、国内を南北18チームずつに分けて行なっている。更にその下にレギョナルリーガ、オーバーリーガがあり、地方リーグ、州リーグ、都市リーグとだんだん小規模のリーグになっていく。そして更にそれぞれのクラブの中で年齢別にチームがあり、大会もある。日本の場合は、日本リーグ、実連、クラブリーグ、教職員大会、自衛隊、学生リーグなどに別れており、競技レベルではなく、自分の職業に合わせてチームを選ばなくてはならない。

〈クラブ運営〉

ブンデスリーガのチームの場合、⅓がスポンサーから、⅓が都市から、残りの⅓はクラブの興行で得た資金で運営している。プロ契約している選手はクラブから給料をもらい、そうでない選手は、他で仕事をしていたり、ユーゲントチームのコーチをしている人もいて、様々である。

クラブの形態は19歳以上のトップチームの下に、Aユーゲント（17～18歳）、Bユーゲント（15～16歳）、Cユーゲント（13～14歳）、Dユーゲント（11～12歳）、Eユーゲント（9～10歳）更に一線を退いたシニアのチームもある。少年に関して言えば、日本は3学年に一人のコーチであるのに対し、ドイツは2学年に一人である。もっと大きな違いは、日本では学校とスポーツが独立していないということである。自分のやりたい競技がその学校に無ければそこで諦めなくてはならないし、指導者が専門家ではない場合もある。

〈練習〉

1チーム14人前後、時間は90分、一番能率の良い人数、時間で行なっている。練習場所は、ブンデスリーガの試合が行われるハンドボール専用の体育館で、時間をずらして行なわれる。私がマグデブルグの体育館に行った時に、Cユーゲントの練習が終わるのをトップのチームのメンバーがストレッチをしながら眺めているという光景を目にした。そして今度は、練習を終え、シャワーを浴びて出てきた少年たちが観客席に座り、何人ものナショナル選手のプレイを頭

にタオルをのせて見ていた。何ともうらやましい光景であった。

練習はのんびりとリラックスした雰囲気で行なわれていた。以前見た韓国の殺気立った練習とは正反対で、怒鳴ったり、殴ったりというシーンは目にしなかった。ただし、試合となるとがらっと変わり、敵にも見方にも審判にも、闘志むき出しでプレイするのである。

練習の内容も韓国と対照的であった。フットワークなど訓練的要素の強い韓国の練習に対し、ドイツの練習はゲーム的要素を取り入れた練習が多かった。また、オフェンスに関してはフェイントよりもシュート、ディフェンスはコンビネイションよりマンツーマンを重視していた。もう一つ練習で特徴的だったのが、いろいろな大きさのボール、カラーコーン、マットなどいろいろな道具を使って、とにかく選手を飽きさせないように練習を工夫していたことだ。勤勉なアジア人と、自由奔放な欧米人の違いだろうか。

〈小学生のハンドボール〉

初めてEユーゲントの練習を見て驚いたのは、日本の小学生とさほど変わりがないということだ。むしろフェイント、ジャンプシュートに関しては日本の子の方が上手だった。ただ、身長が高く、手足が長く、手のひらが大きいのでステップシュートの威力は抜群だった。フェイントやジャンプシュートを覚えなくても点数が取れるので、無理に教えていないのだと私は推測した。子供がハンドボールを競技する上で、一番興味を持ち、満足できるのは、得点することである。より得点しやすいようにルールを変えたミニハンドボールがヨーロッパで行なわれているのはうなずける。平均的に身長が低く、手足の短い日本人こそミニハンドボールを行なうべきだと私は思った。それより早い時期から正規のコートに慣れさせておいた方が良い、と反論されそうだが、その子がより満足できるのはどちらかを考えてほしい。特に小学生のサイドプレイヤーの得点は少な過ぎる。

〈ブンデスリーガ〉

男子はSCマグデブルグ、女子は、VfBライプチヒの試合を観戦した。どちらも3～4位を争っているチームでナショナルの選手もたくさんいた。

試合会場に入るなりすぐに鳥肌が立ち、なぜか涙が出てきてしまった。ハンドボールに携わっている人間なら死ぬ前に一度は見てほしいとその時思った。

ブンデスリーガは会場からしてまず違う。まず目につくのが広告である。壁面から天井から、コートの上にもスポンサーのCMがある。また、どこの会場もハンドボール専用の体育館で、ハンドボールのラインしか引いていない。ひいてあってもせいぜいバレーのラインぐらいである。観客席はサイドラインぎりぎりにあり、ゴール裏には防球ネットが張られ、その後ろにも観客席がある。ガラスばりのVIPルームのある会場もあった。

試合の演出も違う。私の見た試合はあまりタイトルのかかっていない試合だったが、シーズン初めの試合や、タイトルのかかっている試合はすごい盛り上がりらしい。暗闇の中からスポットライトを浴びて選手が入場してきたり、アナウンサーが観客にかけ声を出させたりするらしい。試合の様子はTVで放映され、新聞、ニュースでは全試合結果が紹介される。

日本リーグの試合は同じ会場で2試合続けて行なう場合が多いが、ブンデスリーガはホーム&アウェイで行なっているので一日に1試合しか行なわれない。会場は1時間前に開場し、観戦者は会場の中でビールを飲んだり、W-upの様子を見たりしている。ハーフタイムにもみんなバーに下りてきてビールを飲み、チリンチリンという鐘の合図で席に戻る。

さて、肝心のゲーム内容についてだが、まずルールが違っていた。ブンデスリーガにはタイムアウトがあり、時計もこまめに止めるので、日本リーグより長い時間観戦できる。また、審判の笛もあまく、特に接触プレイの基準が相当あまい。日本人の審判が笛を吹いたら、試合開始10分で、コートには誰もいなくなってしまいそう。

ヨーロッパのハンドボールはパワーオンリー、スピード、テクニックは日本の方が上、と聞いたことがあったが、全然そんなことはなかった。身長2mを越す選手が、ディフェンスのわきの下からアンダーで打ったり、バックシュートを決めたりしているのである。0度の角度からサイドシュートを打ってくる選手もいた。またそれを、監督が、しっかり守れと要求しているのにも驚いた。とにかく個人技に富んでいて、シュートの技術が多彩であった。その上、思い切りがよく、大胆なプレイが多いので見ごたえがあり、興奮できるのである。言うまでもないが、ブンデスリーガの興行を支えているのは、選手のプレイスタイルにあると感じた。あのプレイを見れば、誰もがもう一度見たい、もっとすごいプレイが見たい、と会場に足を運ぶはずである。

熊本世界大会ニュース

★事務局ビルをハンドボールのメッカに

来年5月17日の開幕ちょうど1年前、開催地・熊本で最も交通量の多い交差点内に位置する大会組織委員会熊本事務局ビルに、大会マスコットキャラクター「飛勇太」の巨大な看板（縦7ｍ×横5ｍ）が設置されました。また、開幕までの残日ボードも設置され、道行く人の視線を奪っています。

ビルの玄関には誰もが気軽にハンドボールに触れてもらおうと、ハンドボールすぽっとを設置しました。連日、子供たちやサラリーマンがゴールへシュートを投げ込んでいます。

★ジャパンカップ写真展（5月25、26日）

先に行なわれたプレイベント「ジャパンカップ96」写真展が熊本一の繁華街下通りで行なわれました。迫力ある選手のプレーやリラックスした市民との交流の様子などを展示しました。市民の関心も高く、写真展クイズには多数の参加者があり、合わせて行なった「ひゅうた倶楽部」街頭募集には多数の入会者がありました。

事務局では、今回実施した写真展を、今年行なわれる日本ハンドボールリーグや各種の大会会場で実施の予定。ご要望があれば、熊本事務局広報課までご連絡を。

★ひゅうた倶楽部活動

大会500日前（1月3日）より募集を始めた、大会公式サポーターズ「ひゅうた倶楽部」の団結式が5月26日、熊本市辛島公園で開催されました。式には熊本出身の全日本プレーヤー魚住和彦選手と岩本真典選手もかけつけ、集まった400人の会員は大喜び、会員による団結宣言のほかテーマソング「ONE BALL ONE WORLD」の実演や、応援歌「WOW!」の作者スーパーとをチアリーダーのパフォーマンスなど楽しい団結式が行なわれました。

団結式のあと、400人の会員が早速活動を開始し、魚住、岩本選手や飛勇太くんと一緒に熊本市の目抜き通りをパレード。団結式に集まった会員に配布されたお揃いのTシャツを着て、「ひゅうた倶楽部」と世界選手権を大いにアピールしました。

パレードの終点になったジャパンカップ写真展の会場では、ジャパンカップ街頭会員募集を行ない、魚住、岩本選手がサイン責めに合うなど大いに盛り上がり、2日間で600人を越える入会者があり、会員数は3000人に迫りました。

ひゅうた倶楽部の本来の目的である「自らが考え、活動し大会を盛り上げる」ための「第1回ひゅうた倶楽部スタッフミーティング」が5月25日、熊本事務局で開催されました。ひゅうた倶楽部通信の発行など今後の活動について活発な意見の交換がなされました。今後、月2回のペースでミーティングは行なわれる予定です。会員なら誰でも、また今会員でなくても、当日入会して、そのままミーティングに参加できますのでどんどん参加して、あなたのアイディアで大会を盛り上げて下さい。

ひゅうた倶楽部についてのお問い合わせは、熊本事務局誘客課まで。

★飛勇太出張開始

大会マスコットキャラクターの飛勇太着ぐるみが増産されました。今後行なわれる各種の大会やイベント、祭り等でPRを行ないます。事務局では着ぐるみの貸し出しも行なっております。ご要望の際は、熊本事務局広報課へご連絡を。

★大会テーマソング、応援歌、CD作成

4月ジャパンカップ96熊本大会において大会テーマソング、応援歌の発表と表彰を行ないましたが、この度このテーマソング、応援歌のCDを作成し全国評議員会、理事長会議でも配られ、各協会で行なわれる各種大会時にこのテーマソング等を流してもらうよう依頼をしました。

この曲は覚えやすく、かつ元気が出る曲として大変好評を得ています。事務局では世界加盟国はじめ国内のテレビ、ラジオ、活字等のメディアにも配布し、大会まで

広く広めていくつもりでいます。

★出場国続々決定

先に行なわれた第2回ヨーロッパ男子選手権の結果、ロシア、スペイン、ユーゴスラビア、スウェーデン、クロアチアが出場権を獲得しました。これまで前回アイスランド大会で優勝したフランスと開催国日本だけが決まっていましたが、予選で出場国が決まるのは今回が初めてです。ヨーロッパ大陸からは、今秋から行なわれるヨーロッパ予選でさらに6カ国が決定し、他の大陸からの出場枠も年内に24カ国すべて決定する予定です。

★IHF・COC委員長ピータ・ミューレマター氏来熊

IHF・COC委員長ピター・ミューレマター氏は6月23〜26日まで熊本に滞在。競技会後施設、滞在ホテルの調査、及び競技日程等へ打ち合わせ行ないました。日本協会から中澤専務理事、竹野熊本担当常務理事、山下、井両理事、熊本事務局より前田総局長、古田事務局長はじめ関連部署の責任者らが応対し、協議を行ないました。

各競技場の現地視察と建設中のドームなどは図面で説明。各アリーナ内には実際にコートで本部、ジュリーテーブル、スーパーバイザー席を設けて再確認とアドバイスをいただいた。

ミューレマター氏は、施設については「国際的水準にある」と評価、大変ハードスケジュールでしたが、スケジュールを精力的にこなし「熊本でのハンドの盛り上がりを感じた」と印象を語っていました。

【ピーター・ミューレマター氏】

1945年1月2日スイス生まれ51歳。

ヤングボーイズベルン及びBSVベルンのチームでプレイ。スイスナショナルチーム委員会委員を11年務める。ベルンスポーツ委員長。1986年世界選手権大会組織委員会役員。1988〜1994年国際ハンドボール連盟普及開発委員会委員。1994年国際ハンドボール連盟競技運営委員会委員長。

★第26回IHF総会(アトランタ)にて97年世界大会をPR

第26回IHF総会はアトランタにて開催されたが、この総会の中で97年世界大会、熊本の準備状況をフィルムを使って日本協会渡邊副会長が英語でスピーチ、併せて

ング等が掲載されているパンフ等を配布してPRを行なった。

また、中沢専務理事の代理で出席した井常務理事（国際担当）、熊本事務局・山本理外事調整課長、藤山正文業務課長も同行し、側面から支援、PR活動を積極的に行なった。97年熊本への関心も相当高まっていて、バッチ等のノベルティーも引っ張りだこだった。

★熊本県内で世界大会を成功させる会発足

このほど7月6日(土)、熊本市内のホテルにて大会の盛り上げと成功へと導くため、県内の愛好者が一堂に集り「97年世界大会・熊本を成功させる会」を発足させた。

当日は輿縄義昭熊本ハンドボール協会長、来賓として福島熊本県知事、中村熊本市助役が挨拶、また井県協会副理事長が大会の概要を説明、そして熊本出身の日本協会竹野常務理事（世界大会推進担当）から世界大会に向けての講話があり、県内から参集した約150名のメンバーは今後、本番まで会の活動とどんどん大会を盛り上げようと誓い合った。

第4回アジア女子ジュニア選手権報告

監督　井上亮一

今回のアジア女子ジュニア選手権において韓国、中国に次いで第3位となり、当初の目的であった第11回世界選手権の出場権を獲得することが出来た。

内容的には、強豪の韓国相手に前半26分過ぎには2点のリードするなど互角以上の展開を見せたこと、中国戦ではオープニングゲームという緊張のなか、敗れはしたが、今度やれば勝てるという意識を確認出来たことなど、短期間の合宿の中で基礎技術、特に防御練習しか出来なかったにもかかわらず各選手が忠実に実践してくれたように思えるが、一方では国際試合は勿論、国内での試合ですら経験の乏しい選手達の経験不足を痛切に感じた大会であった。

今後の課題としては、個人のスピード、1対1の防御を突破する個人技術、個人防御、チーム防御、強いイニシアティブを持つチームリーダーの養成、体力面・精神面のスタミナ、的確な状況判断と勝負への執念等があげられる。来年アイボリーコーストで開催される世界ジュニア選手権に向け、これらの課題を踏まえ、大会での目標を強化をしていきたい。この遠征に帯同していただきましたドクター・トレーナーの先生方には調整合宿より入っていただき、選手間とのコミュニケーションは勿論、メディカル面においても大変効果があった。世界選手権にも是非同行していただけるようお願いを申し上げたい。また今回、初めての国際試合を経験するもの選手の多い中で、中国協会の胡理理事はじめ中国協会の皆様には大変良くして頂きお世話になりました。また、現地では右も左もわからない我々にいつもそばでサポートしていただきました通訳の邱さんには、特にお世話になり感謝を申し上げたいと思います。こうした外国で多くの人々との触れ合いにより、選手たちには試合だけでなく多くの国際経験を積んで大きく成長してもらいたい。

■第1戦

日　本22（11－14 / 11－16）30中　国

前半、出足が悪く堅さが見られ凡ミスが続くが、相手も同じような出足であった。点の取り合いを続けていたが、ミスが重なり相手に得点を許しリードを奪われる。終盤に攻撃のリズムが良くなり相手のミスにも助けられ2点差まで行くが、もう1本が出ず3点差で折り返す。

後半、リズム良く始まるが、相手のミスにつけ込めず点差を縮めることが出来ずに進んで行った。中盤にスタミナ切れでミスが出て相手に得点を許す。中盤すぎ相手もスタミナが切れてきたので積極的なDFを仕掛けて行き相手のミスを誘うが、同じようにミスを重ね点差を縮める事ができずに終わった。

■第2戦

日　本27（16－19 / 11－21）40韓　国

前半、先制点を取って行くが、その後シュートが入らず相手に連続得点を許しリードを奪われるが相手のミスに付け込み得点を重ね同点とする。この様な展開で中盤まで進み相手のミスから連続速攻などで得点を奪ってリードし2点差での攻防が続き残り5分を過ぎた所でミスが出て逆転・リードされ3点差で折り返す。

後半、相手の気迫あふれるDF・OFでプレーが消極的となりシュートミスが続き相手に得点を許す。中盤にリズム良く攻撃し得点するが、DFで守り切れず点差を縮める事が出来なかった。終盤は、スタミナがなく無理な攻撃に行って反則を取られ速攻を許した。

2試合とも後半のスタミナ切れが大きく響いた試合であった。

[最終順位]

①韓国、②中国、③日本

個人得点表

	中国	韓国	合計
吉田	——		
飛田			
田中		——	
山下	4(1)	6(1)	10(2)
巽		5	5
村上(美)	——	——	
中村	2	4	6
村上(麻)	2	3	5
浜田	——		
藤野	——		
佐久川	5	——	5
酒井	3	2	5
山崎	5	6	11
菅谷			
稲吉	1(1)	1	2(1)
穂積		——	
	22(2)	27(1)	49(3)

国際レフェリーとして

第４回アジア女子ジュニア選手権で国際大会デビュー

武智誠治

１９９４年に国際審判員の資格を取得してから、今回初めて海外での国際トーナメントである第４回アジア女子ジュニア選手権に参加させていただきました。国際審判員としてのデビュー戦でもあり、日本のレベルをアジアにアピールしなければならない役目を兼ねている大切な大会であると思いながら、中国へと旅立ちました。

今大会はカザフスタンが不参加のため、日本・中国・韓国の３か国によるリーグ戦という小さな大会となってしまいました。その上、ＵＡＥから審判員が来ていたため、全試合数が３試合、審判員が４ペアー（日本・中国・韓国・ＵＡＥ）という審判員の数より、試合数の方が少ないというあまり例を見ない現象が起こってしまいました。最終的にはホスト国の中国の審判の割当がなくなったのですが、割当があるのかどうか、非常に気をもみながら大会の日程を消化していきました。３か国対抗ですから、私達が担当できる試合は韓国－中国戦しかなく、その試合がちょうど大会の最終日の試合、ファイナルゲームであったため、本当に割当がくるかどうか心配でした。しかし、当日の朝のレフェリーミーティングで今日の試合の担当は「Japan」と聞いたとき、ほっとした思いと、軽い緊張を感じました。この大会に参加するまでには、今年に入ってからでも１月にＩＨＦレフェリートレーニングコース、３月にコーチ・レフェリーシンポジウム、及びノルウェーレフェリー講習会などの研修を積んで来ました。理論や考え方には十分な自信もあり、後は実戦で試すだけであったのですが、実際試合を担当してみると、日本で笛を吹くのとは違い、常にいろんな意味でプレッシャーをかけられ、心が揺れ動いているのが自分でもはっきりわかりました。このような心理状態で、良い笛が吹けるわけがなく、試合も私たちが思っていたような運営もできず、不満足な結果となってしまいました。国際審判員の先輩達が、「経験が最も大切である」と言われたことが今にして身にしみて感じてきました。レフェリーにとって経験というものは、非常に大切であり、理論を試合で表現できる技術と精神力を身につけていけるように今後も専心していきたいと思います。

最後になりましたが、今回の派遣に際しご迷惑をおかけした大塚審判長、日本協会の方々、また中国でお世話になりました井団長及び井上先生をはじめとした全日本ジュニアのスタッフの皆様に心から感謝し、報告といたします。

松原誠起

今回、中国の成都市で開催された第４回アジア女子ジュニア選手権に帯同審判として参加させていただきました。この大会が、私たちにとって記念すべき国際トーナメントのデビュー戦となりました。関西空港から全日本のジュニアの選手団と一緒に中国へ向かいましたが、ジュニアのスタッフの皆さんのお心遣いのおかげで、和やかな雰囲気の中、リラックスして成都に着くことができました。北京で乗継ぎがあったりして、大変苦労をしながら、目的地に到着したわけですが、到着した私たちを待っていたのはカザフスタンの不参加という知らせでした。これによって参加チームは日本・中国・韓国の３か国となり、試合数も３試合ということになってしまいました。レフェリーは４ペアー来ていたため、割当があるかどうか、心配しましたが、何とかファイナルの中国－韓国戦を担当させていただくこととなり、緊張しながら、その時を迎えました。試合前に団長の井さんから「私の出会った名レフェリーとは、いつも笑顔を絶やさず、的確な判定をし、試合会場のみんなが試合が終わった時初めて審判がいたことに気づくようなレフェリーである」というアドバイスをしていただきました。さて、私たちの試合はというと、必要以上に神経質になった部分があったりして、自分のリズムを最後までキープすることができず、何をやっていたのか分からないといった状態のまま試合終了の笛を聞いてしまいました。この試合で初めて、国際試合の恐さ、特に他国へ行ったときの運営の難しさを知ることができました。井さんの言われた「最後になって初めて審判のいることに気づく」というようなレフェリングとは、スムーズな試合の運営を指しているのだと思いますが、やはりこれができるようになるためには、いろいろな経験が大変重要になってくるように思います。日本の国際審判員は、このような経験をする場が非常に少なく、苦労をしていますが、今回のような経験を生かして、次回は悔いの残らない試合運営をしたいと思っています。試合の後にやはり団長の井さんからアドバイスをいただき、「まだ、君たちは生まれたてのひよこと同じだ。いろいろな経験をして親鳥になれるよう頑張ってほしい」というお言葉をいただき、これからも謙虚に一歩一歩階段を登るように頑張らねばという思いを強くしました。

最後になりましたが、お世話になりました全日本ジュニアの方々、及び日本協会の関係各位に感謝し、少しでも日本のハンドボール界の発展に今後も協力できるように頑張りたいと思っています。

第5回アジア男子ジュニア選手権大会

全日本ジュニアメンバー発表

第5回アジア男子ジュニア選手権大会は8月21日～9月1日まで中東・アラブ首長国連邦ドバイにて次の9ヶ国が参加して行われる。

参加国は、日本、バーレン、中国、イラン、韓国、クウェート、サウジアラビア、オマーン、アラブ首長国連邦の9ヶ国。

なお、この大会は1997年世界ジュニア選手権大会（8月・トルコ）の資格予選も兼ねているだけに重要な大会であり、上位2ヶ国が世界大会の出場資格がある。日本は前回の第4回大会は第5位であった。

男子アジアジュニア選手権大会の過去の成績は表の通りであり、ジュニアの不振、低迷はそのままシニアの方にも影響があるだけに決勝まで進出して世界大会の出場をねらいたいところ。ジュニア世界大会には1985年のイタリア大会で11位となったが、その後10年間（5度の世界大会）出場していない。常にジュニアの上位を占めているユーゴ、エジプト、スウェーデン、スペインあたりがシニアでもいい成績を残していることを考えると、アジアでのジュニア強化対策に真剣に取り組まないとますます世界から遠くなるばかりである。中近東の台頭もあり、一戦一戦、気を抜けないゲームが続きそうである。

第5回アジア男子ジュニア選手権大会　選手名簿

役職	氏名	所属
団長	住尾　勉	県立土浦第一高校
監督	高橋　精一	桃山学院高校
コーチ	松井　幸嗣	日本体育大学
〃	玉村　健次	湧永製薬㈱
ドクター	橋本　吉登	藤沢湘南台病院
トレーナー	豊嶋　信介	濱脇病院
レフェリー	仲田　稔	県立流山中央高校
レフェリー	植村　彰	県立松戸南高校
通訳	鈴木　千織	㈱エモツク

選手	氏名	所属	所属	身長	体重	出身高校	出身地
1	奥野　誠	函館大学	1976.11.18	184	83	金沢市工	石川県
12	宇野　貴博	日本体育大学	1977.4.12	183	74	横浜商工	神奈川
16	千石　栄治	小松工業高校	1979.3.8	192	75	－－	石川県
2	鈴木　信次	国士舘大学	1976.4.9	188	82	学法石川	福島県
3	谷口　了	日本体育大学	1976.11.1	182	76	北陸高校	和歌山
4	小薮　憲次	中央大学	1976.6.22	176	72	桃山学院	長崎県
5	井上　博人	日本体育大学	1976.5.24	172	68	桃山学院	兵庫県
6	下川　真良	大阪体育大学	1976.6.23	170	66	北陽高校	京都府
7	窪小谷貴浩	学法石川高校	1978.8.7	195	89	－－	福島県
8	大村　佳史	日本体育大学	1977.4.5	176	70	伊奈高校	茨城県
9	前田　誠一	浦和学院高校	1979.5.3	182	70	－－	北海道
10	谷島　正孝	中京大学	1977.6.19	171	70	国学院栃木	栃木県
11	安斎　稔	日本体育大学	1977.7.24	183	70	横浜商工	東京都
13	古家　雅之	筑波大学	1977.9.20	184	70	桃山学院	大阪府
14	瀧川　義史	日本体育大学	1977.12.26	175	63	桃山学院	滋賀県
15	長沢　好一	福岡大学	1977.7.18	183	78	都城工業	宮崎県

男子アジアジュニア選手権大会過去の記録

順位	第1回	第2回	第3回	第4回
	1988年	1990年	1992年	1994年
	シリア	イラン	北京	シリア
1	韓国	中国	韓国	カタール
2	クウェート	韓国	クウェート	バーレーン
3	シリア	シリア	日本	サウジアラビア
4	台湾	日本	台湾	韓国
5	カタール	台湾	中国	日本
6	アラブ首長国連邦	イラン	カタール	アラブ首長国連邦
7	日本	カタール		シリア
8	パレスチナ	インド		クウェート
9	イラン			中国

アトランタオリンピック本部役員に 市原則之氏

第26回オリンピック大会の日本選手団本部役員として日本ハンドボール協会理事・市原則之氏が参加する。

市原氏はJOCで競技と広報を担当することになっていて、その活躍が期待される。JOCの本部役員としてハンドボールから参加するのは初めてのことである。

第1回世界女子学生選手権成績

(1994年6月19日〜26日スロバキア)

●順位

1位　スロバキア
2位　チェコ
3位　ルーマニア
4位　ハンガリー
5位　韓国
6位　日本
7位　ロシア
8位　ドイツ
9位　クロアチア
10位　ブルガリア
11位　ポーランド
12位　台湾

●日本の戦績

予選リーグ

●日本18−26スロバキア
○日本26−23ハンガリー
●日本18−19ドイツ
○日本17−16ブルガリア
○日本24−22ポーランド

5位−6位決定

●日本21−28韓国

第2回世界女子学生選手権

参加国

台湾
クロアチア
チェコ
フランス
ドイツ
ハンガリー
日本
ノルウェー
ポーランド
ルーマニア
ロシア
スロバキア
ユーゴスラビア
ブルガリア

全日本学生女子チームのメンバー決まる

8月26日から9月3日までブルガリアで開催される第2回世界女子学生選手権大会に出場する全日本学生女子選抜チームのメンバーが下表のように決定した。

団長　久保義雄(全日本学生ハンドボール連盟副会長)
監督　水上一(筑波大学)
コーチ　土井秀和(大阪教育大学)
コーチ　五味崇恵
総務　岩崎みどり(株式会社エモックエンタープライズ)
医師　北岡克彦(金沢大学医学部整形外科)
トレーナー　才田浩之(金沢大学付属病院理学療法部)
レフリー　小笠原久郎(進研社)
レフリー　浜田浩和(都立第5商業高校)
選手

GK	遠藤ひろみ	東京女子体育大学	4年	170cm
GK	庵下雪絵	筑波大学	4年	171cm
CP	硲美樹	大阪体育大学	4年	174cm
CP	琴野由子	武庫川女子大学	4年	170cm
CP	梶田華恵	東京女子体育大学	4年	166cm
CP	阿部真澄美	筑波大学	4年	163cm
CP	辻賀奈子	大阪体育大学	4年	163cm
CP	池原みゆき	大阪体育大学	4年	160cm
CP	山口美穂	東京女子体育大学	3年	170cm
CP	日下部美智	筑波大学	3年	169cm
CP	田口順子	日本体育大学	3年	168cm
CP	小島淳子	東京女子体育大学	3年	163cm
CP	早川まさみ	筑波大学	3年	158cm
CP	杉原奈々	武庫川女子大学OG	オムロン	155cm
CP	西田由美子	大阪教育大学	2年	170cm
CP	岡野早苗	筑波大学	2年	166cm

※杉原選手はユニバーシアド規定により、大学卒業後1年までの選手の出場が認められるために、OGであるが選出されている。

私のチームづくり

より楽しく 個性的・創造的なハンドボールを

かながわクラブ 三辻 訓

○基礎的環境

ハンドボールをより楽しく、創造的に行うために、多くの方々のご協力をいただくことができ、ここまでこれたものと感謝しております。これまで、ハンドボールの指導とスポーツ医科学の研究実戦を半々の割合で行ってきました。体力つくりは、勝敗にはすぐに結びつかないという考え方がありますが、個性的・創造的なハンドボールの為には最重要課題と考えています。以下のものは85年から高校生、教員チームで実戦してきたものです。

○測定から処方へ

86年より、体力測定から運動処方までを、防衛大学西山先生にご指導をいただき、チーム指導に導入いたしました。それまでのスキルテストに加え、チームの基礎体力の向上に大きな成果を上げる事ができました。これまでのデータを生かし、さらに有効なトレーニングを研究していきたいと思います。

○メディカルチェック

87年より、湘南台病院高尾良英先生のご指導により、MCを導入させていただきました。現在は河野卓也先生が、年間を通して選手の傷害予防に、治療にご協力をいただいております。怪我をした選手の復帰にも多くの県内スポーツ整形の先生にご協力を頂き、安心してプレイできる環境が整いました。はとり内科クリニック羽鳥裕先生には、内科MCでご指導いただき、貧血等でたいへんお世話になり、食事のご指導までいただいております。

○ウエイトトレーニング

基本的な筋力アップに加え、筋バランスの矯正に主眼をおいて、処方しています。パフォーマンスとして、すぐに確認しにくいものですがオフシーズンの重要な練習として行っています。

○SAQトレーニング

ラダードリルはスピード養成を中心に、アジリティについては、様々なボールを使用して、ともにオリジナルなものを毎回の練習で行っています。各種ハードル等を使用して、プライオメトリクス系トレーニングも行っています。メディシンボールは体の捻りを中心にオフシーズンで実施しました。

○ストレッチング

各種のストレッチングを取り入れています。冬季にはダイナミックストレッチングを、可動域の確保にはPNFストレッチングを行っています。ゲーム中にPNFを有効に利用している選手もいます。

○メンタルトレーニング

リラクゼーションからはじめ、メンタルリハーサルを指導してきました。テープを選手に配り、個々の課題としています。

○ビジョントレーニング

ロングシューターがポストが見えないという発言から始まったトレーニングですが、簡単なカードで、深視力や周辺視野を養う練習を続けています。

○練習計画

選手を育てるという心構えで気の長い計画を立てています。3年計画、年間計画、シーズン計画、短計画で、組み立てます。選手の1回2回の練習では、先が見えず不安になるようですが、短期の課題を設定することで、克服しています。

○個人技能

ミスの大半は投げる側のミスで、パスの重要性を意識することを強く指導しています。シュートは打つことそれ自体が大切ですが、その前の動作や見るポイントの大切さを工夫しています。ディフェンスはフットワークですが、ハンズワークも細かく注意します。

○集団技能

2人以上の攻防練習では必ずパッサーをつけて、ゲームの中の部分練習であることを意識づけます。さらにこの練習が何を目的としているのかを、選手が理解できるように心がけます。3人以上の練習では、パスをする者と受ける者よりも、3人目の選手のプレイに着目していきます。プレイのミスの指導より、こうすればこんなプレイができる。と常に前向きに取り組むようにしています。選手のアイデアあるプレイは大歓迎です。

速攻練習は3人までの基本練習を繰り返します。持久力練習で数分間を足を止めずに反復することもありますが、前もって選手に理解させ、互いに声を掛け合い、自ら挑むように指導します。最も活気ある練習となります。

模擬ゲームは、ゲームの状況を設定します。立ち上がりの10分、作戦はというように指示しておきます。ラスト3分2点差が最も緊張してきます。

一人一人が状況を理解し、局面を考えられるようにとプレイの反省も選手に任せます。

○コーディネート

体力トレーニングとハンドボールをどのようにフィットさせるか。様々なアドバイスをどのようにうけとめるか。私の一番大きな役割と考えています。さらに、選手ひとりひとりの個性あるプレイをどのように組み合わせるか、ゲームをどのように組み立てるのか。監督としての楽しさがここにあるように思います。

指導者の条件

指導者の像「初心者を、指導して23年」

大分電波高校監督　富松秋實

　早いもので、私も現在のチームを指導して、23年目になる。創部当時全国大会出場を目標に、数多くの県外の監督さんに指導を受け、多くの練習試合を繰り返しながら学び、また自分なりに考え、いかに初心者を全国のトップレベルに近づけるか、またそこまで初心者を、引っぱっていけるか、成功した場合、失敗した場合と繰り返しながら、今日迄、指導して来ました。大分電波高校は、毎年初心者（高校入学してから）を集めて指導しています。

　しかし現在の全国レベルに初心者では、なかなか追いつけません。特に全国選抜大会には、間に合いませんので、全国選抜大会には、好成績をあげることが出来ません。6回出場して、3位2回ですが夏までには、初心者でも追いつくことが出来ます。部員には、インターハイ目標で勝負する様に言い聞かせています。インターハイでは、15年連続17回出場、全国優勝1回、準優勝1回、3位2回と約4年に1回ベスト4に入賞しています。全国で数多くの監督さんが、初心者を数多く集めて、努力育成されていると思いますが、参考になれば、私の練習方法の一部を報告します。

①先を読む力

　レギュラーは1年で作り、また1年でというように選手は1年で変わっていくのであるから、その年度の選手を作りながら、常に二軍の選手はその次の年の選手にする事。試合で対戦する相手の監督が何を考えているか読む事。

②与えられた選手での潜在能力を引き出す事。

　毎年選手は変わっていくのである。好選手が毎年いればよいが、そうは、行かない場合が多い。諦めないで粘り強く指導していけばある程度のレベルに近づくと思う。

③選手の精神面の強化

　初めて、ハンドボールに取り組む場合1年間は、ハンドボールより中学時代やっていた部活動の方が良いと感じているが、2年目になると、ハンドをやってよかったと感じる部員が多いと思う。私は部員にいつもいう事は、今から教える（3年間）は、将来大学、実業団にいっても通用するハンドボールを教えるから頑張って「ついてこい」と新チームを作る時に言っています。選手の目的がはっきりしていれば、厳しい指導をしても互に、コミュニケーションがとれていれば、部員と監督の間に、一線を引かないでもよいのでは……？

④監督自身レベルダウン時耐える精神力

　私は、初心者を、ミスを覚悟で2年間レギュラーで使い、2年目で勝負という方法を取っています。ですから1年目の選手のミスは、経験不足と覚悟しています。

⑤チームの特徴を作る

　1年目の選手には、ディフェンス中心に、指導し、2年目の選手には、オフェンス中心に指導し、大分電波伝統の、アタックディフェンスとカサ型攻撃（ダブルポスト）を徹底して、練習し、毎日5kmのランニング等で、スタミナ、持久力を養い将来全日本メンバーで活躍してくれる選手になってくれるのを、夢に見て指導しています。

【戦績】インターハイ優勝1回、準優勝1回、3位2回、全国選抜大会3位2回、インターハイ15年連続17回出場

男女ナショナルチームの更なる強化のために

協会一丸となっての支援を

スポーツ医科学委員長　西山逸成

①男女ナショナルチームの強化の悩み

今般、日本ハンドボール協会の願望するナショナル男女選手の強化がナショナルチーム合宿期間内では達成困難であることや、目前の男子世界選手権（熊本1997年5月）、女子アジア選手権（1996年9月予定）に対応するためにはナショナル男女選手の所属チームスタッフの全面的協力が得られなければ、到底選手のコンディショニングが万全でなくなるどころか、「ナショナル合宿参加時の男女選手はトップコンディションではない」またナショナル合宿や国際大会から「各所属チームに帰った時はガタガタになっていて、チームトレーニングや試合に著しく悪影響を与えている」という両者の共通の問題を解決しなければ、ナショナルチームの競技力水準の回復・向上は望むべくもない。という懸念は排除しなければ、この悪循環は続いていくだろう。

②男子ナショナルチームの現況

男子ナショナルチームを例に挙げると、何とか熊本世界選手権大会において8位入賞の悲願を達成したいという願望からオルソン監督登用に踏み切り、男子チームを世界水準に引き上げようとの夢を託した。しかしながら、平成8年4月から熊本世界選手権大会まで412日間の期間に対してオルソン監督の掌握管理する合宿・遠征は150日間のみであり、各所属チームでの管理期間は262日間に及ぶことになる。チーム帰属期間中はナショナル選手は当然チームの核心的存在だから、トレーニングや競技会等ではチームの要として、休養も不十分なので、当然ナショナル遠征や合宿疲労も未解消のままであるので、傷害も完治し得ないのみでなく、次回ナショナル合宿にはむしろ重症状態という例も稀ではない。

とくに1997年5月17日の熊本男子世界選手権までにチームづくりを念願しているオルソン監督、ひいては日本協会としては重要な解決すべき課題といえよう。基本的に日本協会の強化姿勢とその実務担当の強化委員会の抜本的体質の問われる点ではあるまいか。

③男子ナショナルチームの強化3課題

男子ナショナルチームの前に3つの課題が横たわっている。1つは体力つくり、2つは傷害の回復、

表1　計画

行なわれるメニューは以下の通りである。

ウェイトトレーニング	週2回ペース	
上半身		
ベンチプレス	5RM*5SETS	
ショルダープレス	10RM*5SETS	
ツーハンズカール	10RM*5SETS	
クランチ	25with10〜20kg*5SETS	レスト各3〜5分
レッグレイズ	25*5SETS	
下半身		
スクワット	5RM*5SETS	
デッドリフト	5RM*5SETS	

＃ 8月以降は上記メニューにジャークが取り入れられる。

スプリントトレーニング	週1回ペース	
30m*10sets		
20-40-20m*10sets	各レスト2〜3分	

ジャンプトレーニング	週1回ペース
VERTICAL JUMP	10本連続*5sets
5STEPS	10本

有気的能力トレーニング	週2回ペース
45分間ジョギング	HEART RATE145〜150の間が目安

このトレーニングで最大負荷の血中乳酸は4mMo以下、これ以上行なうとただの疲労蓄積作用になってしまう。

3つはコンディショニングを支える栄養管理がある。

(1) 体力つくりについて（表1）

ナショナル男子の体力水準は決して高くない。総括としては、体重は増加したが、筋力、全身持久力は向上していない。合宿期間中を通じてオルソンメニューが行なわれているが、種目、実施要項及び成果は表1の通りである。

(2) 傷害の現況及び特性（表2）

最も近時の函館合宿時のメディカルチェックによる管理データーである。参加ドクターの所見によれば、「ナショナルチーム結成以来自己管理によるコンディショニングは定着しつつあるので、トレーニング実施前のウォーミングアップとストレッチングは十分に行なわれているが、トレーニング後のクーリングダウンは不十分である」と指摘している。クーリングダウンの意義が疲労の回復、すなわち翌日のトレーニングのためのリフレッシュであることが理解できれば十分な整理運動を実施するようになってこよう。

表2　全日本男子ハンドボールチーム
函館強化合宿　選手管理データ

熊本整形外科病院　Dr.坂口　満　Tr.西山圭介

氏名	日時	現在の障害	処置・トレーナー活動
K.U	6月18日 〜 6月20日	急性腰痛症 歩行困難	ストレッチング・マッサージ 経皮的消炎鎮痛剤（モビラート・モーラス） （ボルタレン座薬50・インテバンSP：坂口Dr.指示）
	6月20日	頭部打撲・頸椎捻挫	意識障害（−） 頭部打撲・頸部痛Icing 頭痛・頸部痛→（投薬：セデス坂口Dr.指示）
K.I	6月18日 〜 6月20日	急性腰痛症 歩行困難	ストレッチング・マッサージ 経皮的消炎鎮痛剤（モビラート・モーラス） （ボルタレン座薬50・インテバンSP：坂口Dr.指示）
K.T	6月18日 〜 6月20日	左前腕部痛	6/17よりボールを投げるとき左前内側部に痛み有り 尺測手根屈筋部に痛みあり　Swelling（＋） 尺測手根屈筋筋腹に血腫あり1×3cm 練習前Taping・Stretching 練習後Icing・Stretching・massage 経皮的消炎鎮痛剤（モビラート） （インテバンSP：坂口Dr.指示）
S.T	6月18日 〜 6月20日	左大腿四頭筋痛 左大腿四頭筋疲労	Stretching・Taping
K.K	6月19日	左膝痛	半月板徴候　McM（−）ACL:hand end point 膝蓋腱付着部痛→ジャンパー膝 練習後Icing Stretching指導
	6月20日	右上腕二頭筋打撲	血腫（−）　断裂（−） Icing・Stretching・圧迫包帯
T.N	6月19日	右足関節痛（骨棘形成疑い） 右膝関節痛 （右膝外側半月板損傷疑い） 右中指PIP関節痛	Swelling（＋）不安定性（−）　Icing 半月板徴候　McM（＋）右外側後面にClic（＋）水腫（−） Icing 数年前より痛みあり　不安定性（−）　要X-P
	6月20日	右足関節痛 （骨棘形成疑い）	Swelling＋Icing・Taping（背屈制限） Taping・ガーゼ圧迫・ワセリン・イソジンガーグル
U.H	6月20日	右尺骨前方亜脱臼	Taping
T.F	6月19日	口腔内裂傷	Icing・ガーゼ圧迫・ワセリン・イソジンガーグル
O.Y	6月19日	右上腕三頭筋痛	血腫（−）筋疲労・筋硬結（＋） Icing・Stretching

(3) 栄養摂取状況

ハンドボール競技がコンタクトスポーツであることから、現在の男子ナショナルチームの平均体重を85kgから90kgに増加させる。そのためには、日間摂取熱量5000Kcal（体重1kgあたり60Kcal）とする。したがって合宿期間中、朝・昼・夕・夜の4回食に加えて午前、午後の各トレーニング中に休憩時を活用した補食（サンドウイッチ、牛乳、果物など）により6回喫食としている。

この栄養摂取によって2週間の第1次合宿によって選手全員2.0〜4.7kgの体重増加を示した。

この急速な体重増加の当然問題点として、体脂肪の増加による内科的疾患が心配されるので、2週間の第1次合宿終了10日後に血液性状を検査した。検査結果は表3に示す通りで、現状では問題はないが体脂肪率の増加傾向は認められている。体重増加の目的は筋肉量の増加であることから、良質の筋肉生成としての蛋白質摂取が一般健常者（1g／体重1kg）に対してナショナル選手は、3倍以上（3g／体重1kg）すなわち約300g（平均体重90kg）の蛋白質（獣肉・魚肉・植物）の摂取が必要となってこよう。もちろん、ミネラル・ビタミンも栄養摂取バランスとして不可欠であるので、食

品添加物として錠剤等の摂取は当然避けた食品摂取を基本とすべきことは、近時のドーピング観念からも守らなければならないスポーツ選手の倫理でもあろう。勿論オルソン監督ならずともJOCの指導方針でもある。

以上のような喫食習慣による5000Kcalの栄養摂取をナショナル合宿から離れた各所属チームでのトレーニング期間中に是非継続する必要があろう。現状では、各所属チームからナショナル合宿参加時の体重は確実に減少（約2kg前後）している。

その理由は、次の現実からやむおえないのでは。選手たちの各所属チームでの栄養管理が、ともすれば従来の朝食（トースト・コーヒー）、昼食（社員食堂）、夕食（炉端焼・ビール、家庭食）の3食では到底5000Kcalの摂取は不可能ではあるまいか。推測（現在ナショナル選手の栄養調査結果を集計中）では3000～3500Kcal水準と想定されるが、トレーニングによる消費量と栄養摂取量とのエネルギー出納は当然マイナスという結果にほかならない。

近日中に、トレーニング・栄養・休養のパターンから日間の基本メニューを2000円前後（月間5万円以上はかけられないという選手の経済的背景を考慮して）の

表3　ハンドボール・ナショナル選手の血液検査結果のまとめ

○女子選手(16名)に関して
- 典型的な鉄欠乏症貧血を2名に認め、うち1名は重症貧血であった。さらに1名の貧血（原因は不明）を認めた。
- 貧血ではないが体内の鉄欠乏状態を呈している選手が多かった（血清フェリチン低値）。
- 総コレステロール高値、尿酸高値、総蛋白低値など、脂質あるいは蛋白質代謝に異常を示す選手も認めた。
- 肝機能や腎機能検査項目は、すべて正常範囲であった。

＊＊以上より、食事摂取内容、トレーニング内容、休養状況などの総合的な健康管理体制の検討が必要と思われる。

○男子選手(10名)に関して
- 合宿中にかなりの高カロリー食を摂取させていた時期の検査結果であった。
- 中性脂肪がやや高値の1名を除き（直前の食事摂取の影響？）、高脂血症は認めなかった。
- 総コレステロール低値を1名に認めた。
- 総蛋白低値を2名に認めた。
- 血糖やや高値を1名に認めた（食後どれくらいに採血したか？）
- 血清鉄および血清フェリチン値はすべての選手で正常範囲にあったが、4名では血清フェリチン値がやや低い傾向を認めた。
- GOTがやや高値の1名を除き（運動トレーニングの影響か？）、肝機能や腎機能異常は認めなかった。

＊＊以上より、合宿中の高カロリー食の悪影響は認められなかった。貧血や栄養摂取状況の悪かったということがこれまでの調査から判明しており、運動トレーニング内容との兼ね合いもあるが、この合宿中の食事摂取内容はそれほど誤っているようには思われない。

表4　試合期の栄養

期区分	栄養の目標	食事内容	留意事項
トレーニング期	①体組識成分の損耗の補充 ②エネルギー代謝、生理機能の維持 ③体力（骨格筋・内臓）増強 ④貧血予防	1．配分比 （脂　質）（蛋白質）（糖　質） 35%　15%　50% 2．ミネラル(カルシウム・鉄分) カルシウム —— 1～2g／日 鉄　分 —— 25～3g／日	発汗量 3l／日
調整期 試合当日 トレーニング 質・量の減少 (−500～1500Kcal)	最大限の競技能力を向上 ①グリコーゲン量(骨格筋・肝臓)の保持増加 ②体力の低下防止 体調の徴調整 精神面の充実 ③ビタミン・ミネラル・水分の補給	1．配分比 （脂　質）（蛋白質）（糖　質） 10～20%　10%　70～80% 2．食事時間 — 試合の2～3時間前 3．消　化 — 加熱処理 4．水　分 — 果汁・みそ汁	グリコーゲン 増加(500g) 体水分増加 (1.5kg) (炭酸飲料？)

コストで作成する予定にしている。今後スポーツ医科学委員会のなすべきこととして本来ならばスポーツ栄養士をナショナル合宿に帯同したり、各所属チームを巡回指導したりすることも対策すべきことであろう。またチームのスタッフも選手ももっと栄養管理に関心を持ってほしいこととして、5 0 0 Kcalの熱量を単に摂取すればよいのではなくて、①栄養素の構成比は基礎トレーニング期間と試合シーズンとでは、その配分は炭水化物（糖質）を軸に変えるべきである（表4）。②摂取量は、ナショナル選手の体重差が75kg～98kgと23kgの差があるように、全員が等質・等量では健康上の被害者は、計量者になってこよう。（栄養指導不十分のツケを選手に廻すな）。③筋力トレーニングの成果は、食事と休養（睡眠）にあることを再認識すべきであろう。すなわち、筋力トレーニングの時期は、午前、午後のトレーニング終了前（技術トレーニング終了後）15～20分間で実施し、昼食、夕食で良質の食品摂取を終え、休養・睡眠というパターンで初めて筋肉づくりが期待されよう。

休養はできるならば睡眠という筋力づくりに最良の条件としての成長ホルモン分泌の生ずる深い眠り（Rem睡眠）を経験させるとよい。また体重の急速増量のサンプルとしての相撲の力士（チャンコ鍋、昼寝）やトンガのラガー（タロ芋）もナショナル選手の筋肉量、体重の増加に示唆を求めてみたい。

重負荷トレーニング：
筋肉づくりの促進作用が強い
食事前にトレーニングを！
睡眠前にトレーニングを！
蛋白質を重視：
筋肉づくりの材料であるアミノ酸を筋肉に供給

図1 筋肉つぐりのタイミングとリズム
<筋肉つぐりの効果的なすすめ方>
（鈴木正成，日本放送出版1990）

4 ナショナル男子選手と所属チームスタッフとの連携について

コンディショニングの検討講習会で、所属チームスタッフと検討会を実施した。

報告は以下の通りである。

ナショナル選手のコンディショニングについての講習会報告

1 目的：ナショナル男女選手の所属チームスタッフに対してナショナル合宿期間以外におけるNA選手のコンディショニングとしての体力トレーニング、栄養管理及び傷害の医療ケアについて更に十分な管理を要望する。

2 項目：

(1) ナショナルチームのトレーニング現況

(2) 男女選手の体力測定・メディカルチェック結果の個人処方

(3) 所属チームスタッフとスポーツ医科学委員会との連携要項

3 日時：**平成8年6月20日**

13：00～17：00 講習会

18：00～21：30 国際大会研修

4 場所：広島市東区スポーツセンター会議室

5 講師・参加者

［講師］

野田　清・強化委員長

西山逸成・スポーツ医科学委員長

加藤　公・鈴鹿回生総合病院ドクター

岡本　健・浜脇病院ドクター

田中　守・福岡大学助教授

［参加者］

菅田信也、山本興道、高村誠一、宮田裕己、西山　清、山村敏之、河原隆雅、小寺勝矢、荷川取義浩、成澤晃子、木下晴雄、田中秀昭、西窪勝広、樫塚正一、藤原　侑、津川　昭、緒方嗣雄、水上　一、田口　隆

6 主要成果及び課題

(1) 今後のNA選手所属チームとの連携要項

①体力つくりの現状把握のためにT・Drがチーム巡回するとともに、各地医療担当S・Drがチームを巡回チェックする。

②日本リーグ、日本選手権大会等には、大会開催地区S・Dr及びTrがナショナル選手の医療ケアを担当する。

(2) ナショナル選手のコンディショニングのための具体策として

①ナショナル合宿以外の期間の栄養基本メニューを作成・配布する。

②ナショナル男女選手個々に対する体力・傷害状況のフィードバ

ックを実施する（合宿時、所属チームトレーニング時）

③ナショナル合宿時や大会時に実施する体力測定やメディカルチェックの結果をその都度、所属チームに対しても資料送付をする。

注）ナショナル男子チーム担当のS・Dr、T・Dr、Tr及びナショナルチームスタッフは、その都度関係資料をスポーツ医科学委員会に送付→医科学委員会→各所属チーム・全Dr・Trに通知する。

④ナショナル選手所属チームスタッフが、つとめてナショナル合宿現地でトレーニング管理を実施する。

(3)スポーツ医科学委員の処遇について

①大会、合宿等の派遣依頼には、Dr、Trは必ずすることにより、メディカルサポート関係者やDr、Trの所属病院等の意識が高まり、理解が深まる。

②T、Drの任務は体力つくりの担当者でもあるので、各種別（ナショナル男女のみでなく、男女B、男女Jr）の選考合宿に加えられたい。

＊本講習会は意義があるので、適時、計画的実施を考える。

5 まとめ

以上、ナショナル選手の各所属チームでのコンディショニングの参考として、体力、トレーニング及び栄養の3点について課題と願望を申し述べたが、日本ハンドボール界期待のオルソン監督に夢を託してしまっていることなので、是非、我々関係者一丸となったサポートをやってみようではありませんか。

競技力向上のためのスポーツ医・科学研究資料集が発行される

今般、スポーツ医・科学委員会の事業計画にもとづく日本体育協会競技力向上事業として、すでに発売いたしました「スポーツ医・科学研究」につづき、「コンディショニング　ハンドブック」と「体力づくり」の編集・作成が完了いたしましたのでご案内申し上げます。

競技力向上のためのスポーツ医・科学研究資料集

☆ハンドボール競技（HANDBALL）コンディショニングハンドブック

ー体力作り・メディカルサポート・コンディショニングー

［内容］

第1章　体力現況と体力づくりの方向について
- I　トレーニングの方向
- II　ナショナル男女選手体力の国際比較
- III　男子ナショナルチームの体力づくり
- IV　女子ナショナルチームの体力づくり
- V　青少年男女選手の体力現況
- VI　ハンドボール競技選手の各機能別トレーニング

第2章　健康管理状況
- I　メディカルサポートの現況と将来方向について
- II　ドクター・トレーナーのチーム帯同報告

〈ドクター〉

〈トレーナー〉

第3章　コンディショニングのための各種研究報告
- I　ナショナルチームの強化策と成果
- II　ゲーム分析
- III　ハンドボールの生理学
- IV　動作分析
- V　心理

第4章　ドーピング・コントロール
- I　日本国内の活動現況

☆体力づくりの実際

ハンドボール選手のウエイト・トレーニングの一例

［内容］

体力づくりの実際
- 1、個人処方基準
- 2、負荷強度と反復回数
- 3、トレーニング期別の基準例
- 4、トレーニング効果の評価
- 5、注意事項

ハンドボール競技選手のウェイト・トレーニングの一例
- 1、目的
- 2、ウエイト・トレーニングを始めるためのトレーニング器具
- 3、バーベルを使う時の心得
- 4、ウォームアップ
- 5、ウエイト・トレーニング時の負荷の目安
- 6、運動種目

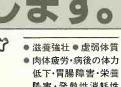
申し込みについて

(財)日本ハンドボール協会宛おたずね下さい。

頒価

「コンディショニング　ハンドブック」一冊　2700円

「体力づくり」一冊　500円

「スポーツ医・科学研究」（既に発売）一冊　2000円

「タイムアウト制、監督の腕次第」

企画・広報委員　**早川文司**

アトランタ五輪の熱戦譜が連日、ＢＳで伝えられている。そこに日本ハンドボールの姿が無いのは、なんとも歯がゆい限りだ。この悔しさは2000年のシドニー大会で晴らしてもらえるものと、ＴＶを見ながら願っている。

ところで、アトランタでは、来年の本格スタートを前に、チャージド・タイムアウト制がテスト採用されている。ＴＶ局のＣＭ挿入という理由も一面にはあるようだが、５月の男子欧州選手権（スペイン）でも試されたし６月のヒロシマ国際大会では、国内で初めて試験的な適用された。

このタイムアウト制は、いわゆるマイボールになった時点でとることが出来るが、広島ではオフィシャルがタイミングを間違えて笛を吹いたりする不慣れも見受けられたが、まずまずのスタートだった。

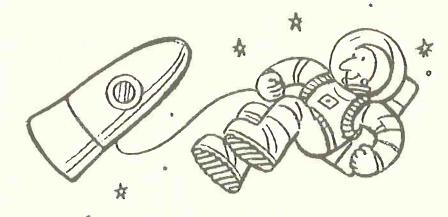
この大会を見て感じたことは、ルールの採用には一長一短があるようだ。そうかといって、決まった以上は有利に導くことは当然である。

観客側から言えば、30分間緊張の連続から解放され、一瞬ホッとする時間の余裕が取れることだろう。再開後、試合の流れがどう変わるかも興味がある。ベンチは悪い流れを断ち切れる効果があるし、直接選手に指示できる利点が生まれる。

一方、せっかく盛り上がった試合が途切れるという点ではマイナス面といえよう。

樫塚・日本代表監督は「１分間という時間をどう有利に使うか、新たな仕事だし、勉強にもなる」と印象を語っていた。

運営面について西元・広島県協会理事長は「興味はあるが、１日に数試合の場合は時間設定が難しい。すべての適用はどうか」と訴えている。

ともかく、タイムをとるタイミングを監督がうまくつかんでくると、観客へのアピールにはいい材料かもしれない。戦術・戦略と合わせチャージ・タイムアウトも監督の腕次第で新鮮味が加わり、ファンの興味を呼ぶことになると感じた。

フリースロー
Free Throw

ドイツ研修報告8

長期を見通したドイツのトレーナ育成システム

順天堂大学ハンドボール部監督　東根明人

はじめに、前号でも触れましたDHB-Pokalについて書いてみたいと思います。ドイツの国内大会は、BundesligaとDHB-Pokalの2つがあります。前者（1950年第1回）は、リーグ戦形式のホームアンドアウェイ方式であり、後者（1975年第1回）は、トーナメント形式のKO方式で行います。Bundesligaの勝者をMeister（チャンピオン）と呼び、DHB-PokalのそれはSieger（優勝者）と呼ばれており、リーグ戦の勝者が真のチャンピオンあるいはホームアンドアウェイでやらないと……という批評はあるにしても、その取扱いは相当大きなものです。DHB-Pokalは、日本で言うとサッカーの天皇杯のような大会です。1部リーグは1回戦がシードされ、優勝するためには残り6試合に勝たなければなりません。その期間はBundesligaの合間をぬってやる関係上、4～5カ月かけてやります。この大会で、私の研修先であるSC Magdeburg（男子）とVfB Leipzig（女子）が、共にドイツ統一後初優勝を飾ったのですから、何にも例えようのない喜びを得ることが出来ました。研修も終盤にさしかかり、チームスタッフ、プレーヤーそしてファンの人たちとも仲良くなり、まるで我がことのように皆と抱き合ってその瞬間の歓喜を味わうことができました。　ところで、Bundesligaについて少々付け加えたいと思います。すでにご存知の方もいらっしゃることでしょうが、その組織について述べたいと思います。Bundesligaは、1部と2部リーグがDHB（ドイツハンドボール連盟）、Regionalligaは5つのRV（地域連盟）そしてOberliga以下は22のLV（地区連盟）が管轄するという構成になっています。特にOberliga以下にはLandesliga、Bezirksliga、Bezirksklasse、KreisligaそしてKreisstantklasseといったクラスがあり、様々な人々がハンドボールをすることが、可能なシステムになっています。勿論これは大人を対象としたリーグですが、これ以外に18才以下のクラスがあるのは言うまでもありません。そして、昨年の段階でクラブ数約5,300、チーム数約34,000、会員総数約820,000人という組織を形成しているのです。私は、Oberliga以下の組織については知らなかったので、この話を聞いたときは、これ程までも細分化され、いろいろな人たちが参加出来るシステムになっていることに改めて感心されられました。

さて次に、Leipzig大学における研修についてですが、現在L.Fahrmann教授が担当するITK（International Trainer Kurs：国際指導者講習会）に参加しています。これは、4月から7月下旬までの4カ月間に渡って行われる公開講座です。ハンドボール以外には、バレーボール、サッカー、テニスそして陸上競技のコースがあります。ハンドボールには、アルゼンチン、メキシコ、ウルグアイ、コスタリカといった国々から男女合わせて12名の指導者が受講しています。月曜日から金曜日まで朝7:30～9:00、9:30～11:00、11:30～13:00の日程で、実技、理論、トレーニング論、スポーツ心理学、スポーツ医学そしてドイツ語といったプログラムが繰り込まれています。外来講師による講義やNationalチーム、Bundesligaのトレーニング及びゲーム観戦もあり、その内容は決して飽きることはなく、毎日新鮮に取り組むことができます。ただ私は、火曜日に関してはW.D.Neiling教授とマンツーマンのゼミナールをしていただいています。彼とは、ドイツにおけるトレーナシステム、強化システムそして技術・戦術論を中心にディスカッション形式で進めていただいています。ドイツ統一後の諸問題も織り交ぜながら（特にSport Politik：スポーツ政策）進められますから、日本では考えてもみなかったテーマも時に飛び出したりしますので、なかなか充実した時間となっています。この他、N.S.Schlegel博士の講座が6月からある予定になっていますので、こちらも受講してみたいと思っています。彼は、ゲーム分析をはじめとするコンピューターの専門家でもあり、多くの卒業生は彼からその手ほどきを受けているといいます。また、彼の開発したソフトをめぐっての話題もあり、今から楽しみにしています。

最後にトレーナ育成システムについてですが、先日HVS（ザクセンハンドボール連盟）のR.Meyer氏と会うことができ、具体的な話を聞いたり、資料を入手することができました。それによりますと、ドイツではCトレーナ（LV担当）、Bトレーナ（RV担当）、Aトレーナ（DHB担当）、そしてKoln体育大学で開催しているDiplomトレーナに分類されています。それぞれ4年、3年、2年の資格有効期限があり、毎回更新時には再教育と称する講習会を受講することが義務づけられています。次に、それぞれの対象となるクラスは、Cが14才以下、BはRegionalligaまで、Aが1部、2部リーグとなっています。したがって講習内容も、それぞれのクラスで要求される技術・戦術そしてコーチング論等になっています。たとえば、同じシュートでもCの段階ではでてこなくて、Bになって出てくる種類があり、同様のことがその他の項目にもいえるのです。即ち、カリキュラムとでもいうべきテーマの体系化と標準化が明確になされているということです。

また、DHBジュニア担当であるK.Langhaff氏（元DDRナショナルトレーナ）からジュニア強化あるいは育成に関する講義がありました。6年計画で、13、14才クラス（C-Jugend）の時から講習会や試合等をどのように実施していくか、といった内容でした。ヨーロッパと世界選手権に照準を合わせた長期プランであり、しかもそれを6年前に遡って立案しているのです。残念ながらわが国では、まだまだここまで達していません。いつの日にか日本も、このような状況になることを夢見ています。

註）文中の「トレーナ」は、日本でいう監督あるいはコーチを意味します。

賛助会員だより

日本協会・賛助会に望むこと

後藤恵理子

私と賛助会の出会いと言えば、もう10年を超えてるんですね。忘れもしない1985年1月の「日本リーグ・オールスター戦」。なぜ忘れないかと言うと、自他共に認めるハンドボールクレイジーの私が、なんと試合を見るのが1年振りくらいだったんです。当時長野県に住んでいた私は、とてもハンドボールの情報に飢えてました（長野県はあまり盛んではないので、全然情報が入ってこないんです。今だったら完全に禁断症状を起こしてます）。だから、オールスター戦は「どうしてもハンドボールを見たい！」と見に行った、念願の試合だった訳です。この会場で、「ハンドボールの情報を手に入れたいあなたに」と書かれた賛助会の入会申込用紙を見て、「これだ！」と入会を決意。さっそく手続きを済ませたのですが……実は期待するほどの情報は、流れてこないんですよね。当時も今も。特典と言えば、日本協会主催の試合をフリーパスで観戦できることだけ。もちろん、私にとってはこのメリットが大きくて、ずっと会員を継続してるんですけれど。

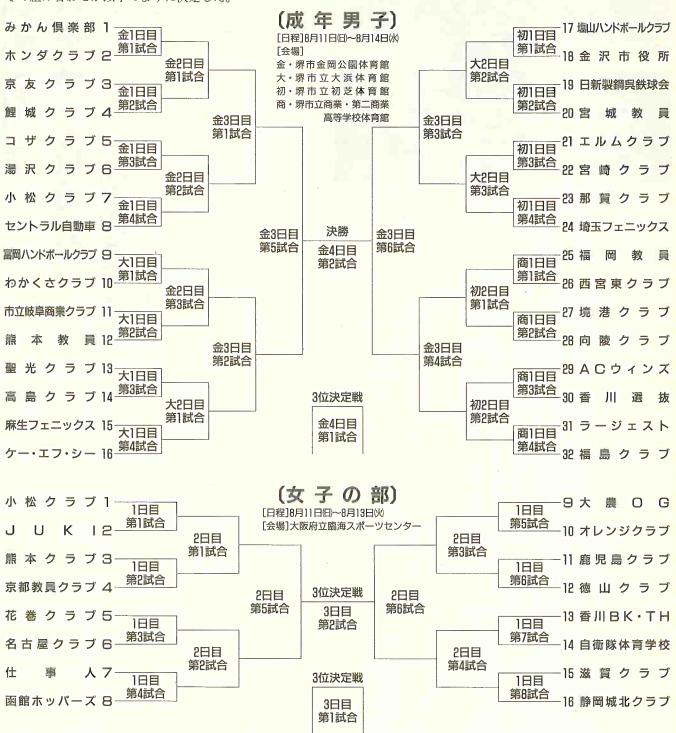
パソコン通信仲間と（左から２人目が後藤さん）

さて、その賛助会。10年も会員をやっていて、このセリフはないんじゃないかという気もするんですが、「何やっている団体なの？」って感じですよね（って無理矢理合意を求めちゃいけないか）。どうせだったらハンドボールのサポータークラブみたいにするといいのに、なんて思っちゃいます。例えば全国大会・国際大会のたびに、観戦・応援ツアーを組むとか、集いを開催して会員同士のコミュニケーションの拡大を図るとか、会員同士だけじゃなくて選手とのコミュニケーションも図れたら最高だなんてね。だとしたら、学生でも気軽に登録できるように、年会費は今の半分くらいにしないとだめでしょうね。外国選手を前にして、サインはもらうは握手はするはという、熊本のジャパンカップで見られた光景を、全面的にバックアップしたりして。今そこで「なにをミーハーなことを」と思ったあなた、ミーハーのパワーを侮ってはいけません。スポーツのメジャー化にミーハーの存在は不可欠なんですから……とミーハー論を始めると長くなるので別の機会（はないでしょうが）にゆずるとして。要は、賛助会の本来の目的がわからないというのが正直な感想ですね。だから退会する（継続しない）人がけっこういたりするんじゃないですか？ 今後賛助会を発展させて行くのであれば、ファンクラブ的な要素を持たせるのがいいんじゃないでしょうか。もっと会員の持つパワーをうまく活用できるようになると、賛助会は活気のある団体になって来るでしょう。

元はと言えば、大いなる情報を求めて入会した賛助会。今は機関誌のようなペーパーメディアからTV放映などのマスメディア、ここ数年でかなり普及が進んだファックスサービス、さらにはインターネットを利用したマルチメディアまで、利用できるメディアは山ほど。特に、最近流行のインターネットは、大いに活用できますよね。なんせ、情報さえ用意しておけば、ほしい人が自分で取りに来るのだから。しかも日本国内に限らず、全世界からアクセスされることになっちゃうんですよね。自宅の、または職場のパソコンからひょいとのぞくと、ドイツやデンマークのリーグの情報まで得られたりするんですよ。こんな便利なもの、どんどん使わなくちゃ。例えば、各種大会の日程と結果、各都道府県の登録チーム、全日本チームの活動状況や動向、一般ファンにしてみると、知りたいことは山盛いっぱい。いろんな情報が出せる仕組作りというのを、どんどん推進して行ってほしいものです。差しあたっては、やはり来年の熊本ワールドチャンピオンシップ関係でしょう。現在熊本県立小川工業高校の岩永先生が、ご好意でワールドチャンピオンシップの情報をインターネットへ流してくださっています。仮にもワールドチャンピオンシップですよ。その情報の発信を、特定の人の好意に頼らざるをえない状況に、ちょっと寂しいものを感じます。

ずいぶん好き勝手なことを書かせていただきましたが、全部ハンドボールのメジャー化作戦には、必要なことだと思ってます。日本協会と賛助会の今後の発展を、おおいに、期待しています（最後までお付き合いいただきましてありがとうございました）。

第１回ジャパンオープンハンドボールトーナメント組み合わせ決まる

第１回ジャパンオープンハンドボールトーナメントは、８月11日～14日まで、大阪堺市・高石市の５会場で開催されるが、その組み合わせが以下のように決定した。

（成年男子）

[日程]8月11日(日)～8月14日(水)
[会場]
金・堺市金岡公園体育館
大・堺市立大浜体育館
初・堺市立初芝体育館
商・堺市立商業・第二商業高等学校体育館

- 1 みかん倶楽部 — 2 ホンダクラブ：金1日目第1試合
- 3 京友クラブ — 4 鯉城クラブ：金1日目第2試合
- 金2日目第1試合
- 5 コザクラブ — 6 湯沢クラブ：金1日目第3試合
- 7 小松クラブ — 8 セントラル自動車：金1日目第4試合
- 金2日目第2試合
- 金3日目第1試合
- 9 冨岡ハンドボールクラブ — 10 わかくさクラブ：大1日目第1試合
- 11 市立岐阜商業クラブ — 12 熊本教員：大1日目第2試合
- 金2日目第3試合
- 13 聖光クラブ — 14 高島クラブ：大1日目第3試合
- 15 麻生フェニックス — 16 ケー・エフ・シー：大1日目第4試合
- 大2日目第1試合
- 金3日目第2試合
- 金3日目第5試合
- 17 塩山ハンドボールクラブ — 18 金沢市役所：初1日目第1試合
- 19 日新製鋼呉鉄球会 — 20 宮城教員：初1日目第2試合
- 大2日目第2試合
- 21 エルムクラブ — 22 宮崎クラブ：初1日目第3試合
- 23 那賀クラブ — 24 埼玉フェニックス：初1日目第4試合
- 大2日目第3試合
- 金3日目第3試合
- 25 福岡教員 — 26 西宮東クラブ：商1日目第1試合
- 27 境港クラブ — 28 向陵クラブ：商1日目第2試合
- 初2日目第1試合
- 29 ACウィンズ — 30 香川選抜：商1日目第3試合
- 31 ラージェスト — 32 福島クラブ：商1日目第4試合
- 初2日目第2試合
- 金3日目第4試合
- 金3日目第6試合

決勝　金4日目第2試合

3位決定戦　金4日目第1試合

（女子の部）

[日程]8月11日(日)～8月13日(火)
[会場]大阪府立臨海スポーツセンター

- 1 小松クラブ — 2 JUKI：1日目第1試合
- 3 熊本クラブ — 4 京都教員クラブ：1日目第2試合
- 2日目第1試合
- 5 花巻クラブ — 6 名古屋クラブ：1日目第3試合
- 7 仕事人 — 8 函館ホッパーズ：1日目第4試合
- 2日目第2試合
- 2日目第5試合
- 9 大農OG — 10 オレンジクラブ：1日目第5試合
- 11 鹿児島クラブ — 12 徳山クラブ：1日目第6試合
- 2日目第3試合
- 13 香川BK・TH — 14 自衛隊体育学校：1日目第7試合
- 15 滋賀クラブ — 16 静岡城北クラブ：1日目第8試合
- 2日目第4試合
- 2日目第6試合

3位決定戦　3日目第2試合

3位決定戦　3日目第1試合

平成8年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第47回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

各地学生春季リーグ戦

■関東学生春季リーグ

▼男子1部

- 筑波大 34-27 順天堂
- 中央大 25-20 国士館
- 日体大 28-28 国武大
- 法政大 23-17 早稲田
- 国士館 27-18 国武大
- 早稲田 33-15 順天堂
- 筑波大 35-23 法政大
- 中央大 33-23 日体大
- 順天堂 26-25 国武大
- 中央大 26-18 法政大
- 国士館 21-20 早稲田
- 筑波大 27-26 日体大
- 中央大 24-24 順天堂
- 日体大 25-23 早稲田
- 筑波大 25-20 国士館
- 法政大 32-25 国武大
- 中央大 30-25 筑波大
- 早稲田 35-25 国武大
- 国士館 21-17 順天堂
- 日体大 30-18 法政大
- 筑波大 39-30 国武大
- 法政大 23-21 国士館
- 中央大 22-21 早稲田
- 順天堂 26-25 日体大
- 中央大 26-24 国武大
- 早稲田 33-30 筑波大
- 法政大 28-22 順天堂
- 国士館 25-21 日体大

［順位］①中央大 ②筑波大 ③国士館 ④法政大 ⑤早稲田 ⑥日体大 ⑦順天堂 ⑧国武大

▼男子2部

- 明治大 25-25 学芸大
- 日本大 21-13 慶應大
- 拓殖大 33-22 青山大
- 東海大 22-10 専修大
- 東海大 31-24 青山大
- 拓殖大 30-16 専修大
- 明治大 25-22 慶應大
- 日本大 25-19 学芸大
- 慶應大 25-19 拓殖大
- 明治大 20-18 専修大
- 日本大 25-24 青山大
- 学芸大 19-18 東海大
- 明治大 35-26 青山大
- 東海大 27-17 慶應大
- 拓殖大 25-23 学芸大
- 日本大 29-14 専修大
- 慶應大 20-19 専修大
- 青山大 34-26 学芸大
- 東海大 19-12 日本大
- 明治大 30-29 拓殖大
- 学芸大 24-20 専修大
- 慶應大 29-23 青山大
- 東海大 30-24 明治大
- 日本大 23-14 拓殖大
- 専修大 36-26 青山大
- 慶應大 30-19 学芸大
- 日本大 33-21 明治大
- 東海大 19-17 拓殖大

［順位］①日本大 ②東海大 ③明治大 ④慶應大 ⑤拓殖大 ⑥学芸大 ⑦青山大 ⑧専修大

▼男子3部

- 武蔵工大 34-16 一橋大
- 茨城大 30-26 横浜国大
- 明星大 35-24 東京大
- 神奈川大 21-21 横浜商科
- 茨城大 28-19 東京大
- 明星大 35-19 横浜国大
- 武蔵工大 23-14 神奈川大
- 横浜商科 32-17 一橋大
- 横浜国大 31-24 横浜商科
- 明星大 37-21 一橋大
- 武蔵工大 26-19 東京大
- 神奈川大 26-23 茨城大
- 武蔵工大 33-21 横浜国大
- 明星大 24-23 神奈川大
- 横浜商科 34-19 東京大
- 茨城大 36-19 一橋大
- 横浜国大 32-21 一橋大
- 明星大 30-20 横浜商科
- 神奈川大 34-24 東京大
- 武蔵工大 22-21 茨城大
- 東京大 29-21 一橋大
- 横浜商科 30-21 茨城大
- 武蔵工大 23-21 明星大
- 横浜国大 31-23 神奈川大
- 神奈川大 30-25 一橋大
- 武蔵工大 31-22 横浜商科
- 茨城大 23-17 明星大
- 横浜国大 34-31 東京大

［順位］①武蔵工大 ②明星大 ③茨城大 ④横浜国大 ⑤横浜商科大 ⑥神奈川大 ⑦東京大 ⑧一橋大

▼男子4部

- 立教大 32-15 明治学院
- 千葉大 20-18 上智大
- 東京経済大 31-24 産能大
- 東京理科大 31-19 都立大
- 立教大 32-13 都立大
- 東京経済大 15-13 千葉大
- 東京理科大 26-17 明治学院
- 上智大 23-21 産能大
- 上智大 23-20 都立大
- 東京経済大 27-21 明治学院
- 東京理科大 23-17 千葉大
- 立教大 35-16 産能大
- 東京経済大 40-16 都立大
- 産能大 23-23 東京理科大
- 立教大 27-18 千葉大
- 上智大 29-20 明治学院
- 上智大 22-22 立教大
- 東京経済大 24-23 東京理科大
- 産能大 28-26 都立大
- 千葉大 21-20 明治学院
- 東京理科大 24-21 上智大
- 明治学院 28-27 産能大
- 東京経済大 23-22 立教大
- 千葉大 25-14 都立大
- 東京経済大 27-26 上智大
- 明治学院 32-15 都立大
- 立教大 32-26 東京理科大
- 産能大 19-19 千葉大

［順位］①東京経済大 ②立教大 ③東京理科大 ④上智大 ⑤千葉大 ⑥明治学院 ⑦産能大 ⑧都立大

▼男子5部

- 横市大 29-22 東洋大
- 創価大 26-13 国学院大
- 帝京大 30-21 東農大
- 大東大 33-9 駿河台大
- 横市大 51-9 駿河台大
- 東農大 22-21 国学院大
- 帝京大 21-10 創価大
- 大東大 27-20 東洋大
- 東洋大 25-16 創価大
- 帝京大 23-17 駿河台大
- 横市大 43-18 国学院大
- 大東大 24-13 東農大
- 東農大 13-12 創価大
- 国学院大 24-21 帝京大
- 大東大 23-16 横市大
- 東洋大 37-19 駿河台大
- 創価大 29-14 駿河台大
- 東洋大 21-20 帝京大
- 大東大 30-23 国学院大
- 横市大 31-18 東農大
- 東農大 33-16 駿河台大
- 東洋大 26-15 国学院大
- 横市大 21-15 創価大
- 大東大 20-20 帝京大
- 帝京大 27-9 横市大
- 国学院大 31-24 駿河台大
- 大東大 29-19 創価大
- 東洋大 22-10 東農大

［順位］①大東大 ②横浜市立大 ③東洋大 ④帝京大 ⑤東京農業大 ⑥創価大 ⑦国学院大 ⑧駿河台大

▼男子6部

- 成蹊大 33-26 東工大
- 芝工大 34-11 玉川大
- 防衛大 30-27 亜細亜大
- 都留文大 26-17 千工大
- 成蹊大 26-24 芝工大
- 防衛大 27-22 東工大
- 都留文大 19-16 玉川大
- 亜細亜大 27-20 千工大
- 東工大 22-14 玉川大
- 成蹊大 30-18 亜細亜大
- 芝工大 29-20 都留文大
- 防衛大 29-23 千工大
- 東工大 28-20 亜細亜大
- 成蹊大 44-16 玉川大
- 芝工大 30-14 千工大
- 都留文大 27-25 防衛大
- 芝工大 30-22 亜細亜大
- 成蹊大 31-20 千工大
- 都留文大 23-22 東工大
- 防衛大 30-15 玉川大
- 成蹊大 35-27 防衛大
- 都留文大 26-19 亜細亜大
- 芝工大 27-15 東工大
- 千工大 20-15 玉川大
- 亜細亜大 31-17 玉川大
- 芝工大 25-19 防衛大
- 成蹊大 32-20 都留文大
- 東工大 35-25 千工大

［順位］①成蹊大 ②芝浦工業大 ③都留文科大 ④防衛大 ⑤東京工業大 ⑥亜細亜大 ⑦千葉工業大 ⑧玉川大

▼男子7部

- 杏林大 22-22 駒沢大
- 工芸大 22-13 武蔵大
- 学習院大 33-20 埼玉大
- 農工大 17-16 文教大
- 杏林大 18-17 農工大
- 駒沢大 26-18 武蔵大
- 工芸大 27-24 埼玉大
- 学習院大 24-21 武蔵大
- 文教大 22-18 駒沢大
- 学習院大 21-20 杏林大
- 駒沢大 32-15 埼玉大
- 農工大 19-10 武蔵大
- 文教大 30-22 工芸大
- 駒沢大 27-22 学習院大
- 農工大 24-23 工芸大
- 杏林大 28-12 埼玉大
- 文教大 20-19 武蔵大
- 学習院大 35-32 工芸大
- 農工大 17-14 駒沢大
- 埼玉大 21-20 武蔵大
- 杏林大 19-19 文教大
- 駒沢大 33-21 工芸大
- 農工大 29-21 学習院大
- 杏林大 26-20 武蔵大
- 文教大 25-23 埼玉大

［順位］①農工大 ②文教大 ③杏林大 ④駒沢大 ⑤学習院大 ⑥工芸大 ⑦埼玉大 ⑧武蔵大

▼男子8部A

- 宇都宮大 不戦勝 東電大
- 山梨大 34-21 工科大
- 群馬大 29-20 東電大
- 山梨大 30-19 宇都宮大
- 群馬大 29-20 工科大
- 工科大 20-19 東電大
- 群馬大 29-20 山梨大
- 宇都宮大 27-19 工科大
- 山梨大 28-16 東電大
- 宇都宮大 22-22 群馬大

［順位］①山梨大 ②群馬大 ③宇都宮大 ④工科大 ⑤東電大

▼男子8部B

- 獨協大 37-20 白鷗大
- 昭和薬科 28-8 東電学園
- つくば国際 29-27 帝京平成
- 獨協大 27-20 日本工科
- 日本工業 34-12 東電学園
- 白鷗大 23-16 帝京平成
- 日本工業 33-12 帝京平成
- 昭和薬科 22-15 白鷗大
- 獨協大 35-18 つくば国際
- つくば国際 27-27 昭和薬科
- 日本工業 28-15 白鷗大
- 獨協大 21-15 昭和薬科
- 日本工業 30-20 つくば国際
- 昭和薬科 25-16 帝京平成
- 獨協大 30-11 帝京平成
- 日本工業 20-12 昭和薬科

［順位］①獨協大 ②日本工業 ③昭和薬科 ④つくば国際 ⑤白鷗大 ⑥帝京平成

▼女子1部

- 日女体 22-19 日体大
- 筑波大 28-17 茨城大
- 東女体 28-16 国士館大
- 日女体 22-18 日体大
- 筑波大 20-19 茨城大
- 東女体 33-11 国士館大
- 筑波大 19-12 日女体
- 東女体 32-19 茨城大
- 日体大 20-16 国士館大
- 筑波大 30-17 日女体
- 東女体 34-10 茨城大
- 日体大 23-19 国士館大

茨城大 20－17 国士館大
東女体 27－20 日女体
日体大 20－20 筑波大
国士館大 21－17 茨城大
東女体 22－15 日女体
日体大 20－18 筑波大
日女体 17－16 茨城大
筑波大 25－13 国士館大
東女体 30－22 日体大
日女体 21－11 茨城大
筑波大 21－18 国士館大
東女体 25－16 日体大
日女体 23－11 国士館大
日体大 26－13 茨城大
東女体 23－22 筑波大
日女体 17－12 国士館大
茨城大 21－19 日体大
東女体 25－25 筑波大

[順位]
①東京女子体育大
②筑波大
③日本女子体育大
④日本体育大
⑤茨城大
⑥国士館大

▼女子2部A
学芸大 31－13 玉川大
聖徳大 20－11 千葉大
東海大 33－1 昭薬大
聖徳大 36－3 昭薬大
学芸大 34－14 理科大
東海大 33－9 千葉大
学芸大 36－5 昭薬大
東海大 34－14 玉川大
聖徳大 31－21 理科大
東海大 34－5 理科大
聖徳大 19－13 玉川大
学芸大 23－17 千葉大
聖徳大 20－17 学芸大
千葉大 18－16 理科大
玉川大 19－3 昭薬大
東海大 28－13 学芸大
理科大 21－4 昭薬大
玉川大 16－14 千葉大
千葉大 16－6 昭薬大
玉川大 21－19 理科大
東海大 25－13 聖徳大

[順位]
①東海大
②聖徳大
③学芸大
④理科大
⑤玉川大
⑥千葉大
⑦昭和薬科大

▼女子2部B
順天大 25－9 大東大
文教大 16－11 国際大
都留大 32－6 医科大
都留大 14－7 大東大
順天大 32－11 国際大
文教大 40－9 医科大
文教大 19－16 大東大
国際大 24－5 医科大
順天大 20－15 都留大
順天大 28－13 文教大
大東大 16－3 医科大
都留大 22－20 国際大
都留大 19－16 文教大
順天大 38－4 医科大
国際大 18－13 大東大

[順位]
①文教大
②都留大
③順天堂大
④大東文化大
⑤医科大
⑥国際大

■中国四国学生春季リーグ

6月6日～9日・鳥取市民体育館

▼男子1部
広島経済大 22－15 広島大
広島経済大 22－18 松山大
広島経済大 30－17 岡山大
広島経済大 24－16 愛媛大
広島経済大 28－16 高知大
広島大 32－16 松山大
広島大 26－12 岡山大
広島大 21－13 愛媛大
広島大 27－14 高知大
松山大 25－16 岡山大
松山大 22－19 愛媛大
松山大 20－19 高知大
岡山大 16－16 愛媛大
岡山大 17－14 高知大
愛媛大 16－16 高知大

[順位]
①広島経済大
②広島大
③松山大
④岡山大
⑤愛媛大
⑥高知大

▼男子2部
山口大 22－14 広島工大
近畿大 14－12 山口大
山口大 18－12 香川大
山口大 29－12 徳島大
山口大 33－11 広島修道大
広島工大 19－12 近畿大
広島工大 22－12 香川大
広島工大 22－17 徳島大
広島工大 24－8 広島修道大
近畿大 19－17 香川大
近畿大 25－9 徳島大
近畿大 22－11 広島修道大
香川大 22－19 徳島大
香川大 32－9 広島修道大
徳島大 30－10 広島修道大

[順位]
①山口大
②広島工業大
③近畿大
④香川大
⑤徳島大
⑥広島修道大

▼男子3部X
島根大 28－15 徳島文理大
島根大 16－9 鳥取大
島根大 17－12 徳山大
徳島文理大 20－17 鳥取大
徳島文理大 19－14 徳山大
鳥取大 12－10 徳山大

▼男子3部Y
川崎医福大 24－16 岡山商大
川崎医福大 28－18 四国大
川崎医福大 40－6 四国学院大
岡山商大 16－15 四国大
岡山商大 33－9 四国学院大
四国大 23－8 四国学院大

[順位決定戦]
川崎医福大 24－14 島根大
岡山商大 18－17 徳島文理大
鳥取大 19－13 四国大
徳山大 32－3 四国学院大

[順位]
①川崎医療福祉大
②島根大
③岡山商科大
④徳島文理大
⑤鳥取大
⑥四国大
⑦徳山大
⑧四国学院大

▼女子1部
広島大 13－11 岡山県立大
広島大 12－6 川崎医福大
広島大 31－5 四国大
広島大 24－2 愛媛大
岡山県立大 26－7 川崎医福大
岡山県立大 33－9 四国大
愛媛大 13－11 岡山県立大
川崎医福大 15－7 四国大
川崎医福大 11－5 愛媛大
四国大 17－11 愛媛大

[順位]
①広島大
②岡山県立大
③川崎医療福祉大
④四国大
⑤愛媛大

▼女子2部
岡山大 22－12 鳴門教育大
岡山大 17－12 香川大
岡山大 35－8 山陽学園短大
鳴門教育大 18－11 香川大
鳴門教育大 37－3 山陽学園短大
香川大 22－9 山陽学園短大

[順位]
①岡山大
②鳴門教育大
③香川大
④山陽学園短大

トピックス

全日本男子チーム　海外へ武者修行

オルソン全日本監督が今春国内での合宿をスタートし、第4次6月函館、第5次7月北海道・紋別にて強化合宿を終え、着々とチームが形づくられている。木浪（中村荷役）が都合上、全日本を辞退したのは痛いが、新加入のメンバーがチームにも慣れ成果をあげているのは心強いかぎりである。

そして、いよいよチーム力を試すために今夏ドイツ、フランスに遠征する予定である。この遠征には現選手22名全員という話もあったが、16名の精鋭で臨み、ケガ人は帯同させない。早く直して万全の状態で参加するようオルソン監督は強い姿勢で臨んでいる。

全日本の遠征予定は、8月24日～9月9日・ドイツSPAKACOPY、9月2日～9月8日・フランス・第21回ジョムジュマラン杯（第2回クラブインターコンチネンタル大会、16チーム参加）にそれぞれ出場する。

96年男子ジュニアヨーロッパ選手権大会出場国決まる

○グループA

クロアチア、デンマーク、チェコ、ポルトガル、フランス、スウェーデン

○グループB

スペイン、ユーゴスラビア、ギリシャ、ベラルーシ、ルーマニア、ロシア

96年男子ジュニアヨーロッパ選手権大会は8月16～25日まで、ルーマニアの北部、オラデヤ市にて開催される。この中で注目されるのはギリシャ、ポルトガル。特にポルトガルは95年男子ジュニア世界大会（於アルゼンチン）で3位の成果をおさめていて今回も強豪がひしめくヨーロッパにおいて12ケ国に入っているのは長年の強化が実ってきたといえる。

8月の行事予定

◇第47回全日本高校選手権大会
8月2～7日　山梨県・塩山市
塩山市民体育館
0553－32－1116
塩山高校体育館
0553－33－2543

◇第39回全日本教職員選手権大会
8月6～9日　埼玉県・草加市
スポーツ健康都市記念体育館
0489－22－1151
三郷市
三郷市総合体育館
0489－53－6121

◇第23回全国高専選手権大会
8月10～11日　熊本県・熊本市
熊本県立総合体育館
096－356－1233

◇第1回ジャパンオープントーナメント
（男子の部）
8月11～14日　大阪市・堺市
堺市金岡公園体育館
0722－21－2086
（女子の部）
8月11～13日　大阪市・高石市
大阪府立臨海スポーツセンター
0722－63－4035

◇第25回全国中学校大会
8月23～25日　岐阜県・岐阜市
岐阜メモリアルセンター
058－233－8822

CONTENTS　8月号

■職を探しています。

フランスのプロフェッショナル選手兼トレーナーです。

氏　　名：ZIVOVIC Boban
住　　所：20,Piace de la Republique 80800 CORBIE FRANCE
生年月日：1961年7月28日
国　　籍：ユーゴスラビア
身　　長：190cm
体　　重：92kg
ポジション：左フローター、ハーフセンター
免　　状：ハンドボール　トレーナー（ユーゴスラビアにて）、BF3（フランス）
話せる言語：セルブ、フランス語、英語少々
過去所属クラブ：1,MKS Smederevo
2,Proleter Naftagas-Zrenjanin lere Div
3,L'Etoile Ronge de Belgrade lere Div
4,Kristai-Zajecar lereDiv
5,Beausoleil
6,E.S. Villenenve-Loubet
7,H.B.Corbie
トレーナーとしての所属クラブ：M.Obradovic lere div. Yougoslave
M.Milatovic lere div. Yougoslave
M.J.Stankovic lere div. Yougoslave
私は次の選手とゲームをしました：
M.Rnic, J.Elezovic, E.Velic, J.Cvetkovic, D.Lukic(division Yougoslave)
フランスのH.B.Corbie N3（リーグ戦4）'95-'96季第3位のプロフェッショナル選手兼トレーナーであります。
20,Piace de la Republique 80800 CORBIE FRANCE tel.22-48-22-25

訂正とお詫び　先月号で13頁の国体ブロック大会開催県一覧表中関東ブロックの平成9年と10年が逆になっていました。訂正してお詫びします。

三菱重工

まさに高効率駐車

- 前面空地不要。間口7.8m×奥行17.5mの土地をフル活用
- エレベータをとり囲む7台分の駐車スペース（2層より上）
- エレベータで昇降、パズル方式で駐車。入出庫は同時進行
- 昇降120m/分、水平搬送60m/分の高速で素早い入出庫
- 低圧受電で電気料金が割安。電気取扱主任技術者が不要
- 1人で、エレベータ方式3基分に相当する管理ができる
- CO_2ボンベ室・電気室など、必要設備をすべて塔内に収納

エレベータ十パズル方式（特許申請中）

三菱グリッドパーク

三菱重工業株式会社

本　社　パーキングシステム部　東京都千代田区丸の内2-5-1 〒100 ☎(03)3212-9157~61
中国支社　鉄　構　二　課　広島市中区大手町2丁目11－10　〒730 ☎(082)248-5185
（NHK広島放送センタービル）

本気なら、アシックス。

ニッポンを強くする2つのジャパン。

なによりもスピードが要求されるハンドボールには、
屈曲性に優れ、滑りにくいスパイラルソールを。
さらに、着地衝撃を和らげるαGELなどを
共通仕様にしたジャパンα-Lとα-S。
この2つのジャパンがニッポンを強くする。

品名 スカイハンド® ジャパンα-L
品番 THH710　メーカー希望小売価格 ¥17,500
カラー／●ホワイト×Ⓦマリンブルー・レッド
●ホワイト×Ⓦレッド・マリンブルー
サイズ／22.5〜29.0cm

品名 スカイハンド® ジャパンα-S
品番 THH711　メーカー希望小売価格 ¥16,500
カラー／●ホワイト×Ⓦレッド・マリンブルー
●ホワイト×Ⓦマリンブルー・レッド
サイズ／22.5〜29.0cm

株式会社アシックス

●表示価格は消費税抜きの価格です。消費税は別途申し受けます。●Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックスお客様相談室までどうぞ。
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)　〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表)

（財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第三六六号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成八年七月二十六日　印刷
平成八年八月一日　発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表　三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　中澤重夫

定価三五〇円